

授業科目	英語Ⅲ（読解） English III	担当教員	松尾 文子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	1. 一般的な英語表現形式の確認を行い、読解能力を強化する。 2. 医療・看護・福祉分野の文献を読む。 3. 本文を通して、今日的なテーマに対する興味を持つ。		
到達目標	1. 英文の内容を正確に把握する。 2. テキストを通じて英語の表現力を高める。 3. テキストを通じて、語彙力を高める。		
テキスト	A Healthy Life for Today and Tomorrow The Society of English Studies (2021. 朝日出版)		
参考書	必要に応じて紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	70%	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験で70%、授業で行うリスニングの小テストで20%、授業の取り組み姿勢の10%で評価する。 中間・定期試験を未受験の場合は、評価の対象としない。
	レポート		
	小テスト	20%	
	提出物		
その他	10%		
履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。		
実務経験を活かした教育内容			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス / Unit 1: What health means to us: maintaining our bodies and souls for today and tomorrow
		授業内容	本科目の学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等を説明する。 / 健康に関する4つの側面を理解する。
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を確認する。
	2	学習の主題	Unit 2: Chocolate may help you improve your health
		授業内容	ポリフェノールが含まれる飲食物とその効用について学ぶ。
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
	3	学習の主題	Unit 3: Some people want to reduce the amount of time they spend on their phones
		授業内容	スマートフォンの利用時間について考え減らす方法を考える。
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
	4	学習の主題	Unit 4: Can AI heal us mentally?
		授業内容	健康管理におけるAIの潜在的影響について理解する。
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
	5	学習の主題	Unit 5: Japanese school lunches benefit children in many ways
		授業内容	日本の食育の勧化方が学校給食にどのように取り入れられているかについて学ぶ。
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
	6	学習の主題	Unit 6: Foods that contain hidden sugar and how to avoid them
		授業内容	食品の糖分が非表示について考える。またその摂取量を抑えることについて考える。
事前・事後学習		事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。	

回数 (担当)	項目	内容
7	学習の主題	Unit 7: Periodontal disease can cause many other illness
	授業内容	歯周病と死に至る病との関係とその予防法を学ぶ。
	事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた教材内容を再確認する。
8	学習の主題	中間試験
	授業内容	これまでに学んだ内容の理解度チェック
	事前・事後学習	事前：これまでの授業内容を復習する。 事後：可能な範囲で自分の解答の正誤を確認する。
9	学習の主題	Unit 8: A regular lifestyle for a creative life
	授業内容	創造的になるための日々のルーティーンの重要性を著名人から学ぶ。
	事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
10	学習の主題	Unit 9: Pets can bring many good things into our lives
	授業内容	ペットとともに暮らすことで私たちの生活にどのような変化をもたらされるかについて学ぶ。
	事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
11	学習の主題	Unit 10: Community-based integrated care
	授業内容	現代のヘルスケア組織に求められる地域包括ケアという政策について理解する。
	事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
12	学習の主題	Unit 11: Knotworking: beyond professionalism
	授業内容	専門性を超えた働き方が求められる現代のヘルスケア組織について学ぶ。
	事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
13	学習の主題	Unit 12: The health benefits of ansen
	授業内容	温泉とその効能を説明する英語表現を学ぶ。
	事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
14	学習の主題	Unit 13: How to avoid sleep debt
	授業内容	睡眠時の脳の働きと睡眠負債の危険性を理解する。
	事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
15	学習の主題	これまでの授業の振り返り
	授業内容	これまで学んだ内容の確認
	事前・事後学習	事前：これまでの授業内容を確認する。 事後：期末試験の勉強をする。

学習の主題・
授業内容

授業科目	生活環境論 Environmental Life Science	担当教員	江本 匡
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	人間を取り巻く自然および社会・文化的な環境をシステムという視点から再考し、それらの相互関係を深く認識するとともに、現在、システムで進行している様々な問題点を深く理解し、人の健康と生活の充実、健全な社会の発展という面から、課題に柔軟に対応できる能力の涵養を目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然環境、生活環境と健康との関わりを概略を説明できる。 2. 生活全般をカテゴリー化した構造をもとにヘルスプロモーションの概念を説明できる。 3. ストレスと免疫低下、病気との関係が概説できる。 4. 生活習慣病を生体リズムの乱れ、後天性の代謝障害の面からも理解できる。 5. 情報の授受、利活用と健康の関わりが説明できる。 6. 地球温暖化の危険性、環境保全の重要性を認識し、保全活動を実践できる。 		
テキスト	佐々木胤則編著「変化する環境と健康 改訂版」(三共出版)		
参考書	テキストの章末を参照する。最新の文献は講義中に適時提示する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準 目標の到達状況を、課題(事前課題)の完成度、授業への取り組み姿勢、定期試験により評価し、それぞれの評価割合は、課題 30%、取り組み姿勢 20%、定期試験 50%とする。なお、評価は 5 段階評価とし、総合で 60%以上を単位認定の基準とする。
	試験	50%	
	レポート		
	小テスト		
	提出物	30%	
	その他	20%	
履修上の留意事項	授業終了時に、次の講義に関わる課題を提示する。課題は、予習として講義までに作成しておき、授業に基づいて追加・修正したものを終了時に提出することとします。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験をもちに具体的な事例を示しながら理解を深めてもらいたいと考えています。		
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1	学習の主題	環境科学としての生活環境と健康について
		授業内容	自然環境は生命活動が加わって時間と共に相互にゆっくりと変化してきたが、有史からは人間活動の影響を受けて、急速に変化した健康への考え方について概要する。
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を確認しておく。文明・近代史を環境と人との相互関係から捉え、文明発祥地の盛衰理由を考える。(第1章)
	2	学習の主題	生活環境と健康の構造、ヘルスプロモーションについて
		授業内容	健康に関わる社会・生活環境を7つの領域に、さらに公的責任分野と自己責任分野に分けて構造化し、ヘルスプロモーションの基礎的概念について概説する。
		事前・事後学習	総論の健康の捉え方を読み、WHO がこの数十年に取り組んできた活動を整理する。(第1章、第2章)
	3	学習の主題	環境と健康に関わる近年の動向
		授業内容	健康に関わる事項として、感染症との戦い、増え続ける生活習慣病、環境破壊による健康被害、増大する心の病、困窮する健康福祉体制の現在に至る状況を整理し、今後の方向を探る。
		事前・事後学習	第2章「環境と健康」に関する近年の動向を読み、将来につながる問題点をあげる。
	4	学習の主題	環境に対する調節・適応とストレス刺激
		授業内容	環境刺激に対する調節・適応という事象を調節の局面から取り上げ、調節・適応の負の作用として、生活習慣病やアレルギー疾患増大について考える。
		事前・事後学習	生活環境における具体的なストレス場面を分類して記述してみる。(第3章)
	5	学習の主題	生活環境におけるストレスとメンタルヘルス
		授業内容	構成概念とされるストレスとストレス刺激の違いを明確にし、刺激に対する脳のホメオスタシス機能からメンタルヘルスについて解説する。
事前・事後学習		心理学で提唱されている心の構造と脳機能との関係を調べる。(第3章)	

回数 (担当)	項目	内容
6	学習の主題	水・空気の汚染と健康問題の変遷
	授業内容	生命にとっての水や空気の役割を改めて解説し、近代産業によって引き起こされた環境汚染と健康被害の実情を取り上げ、自然との調和という面から生活環境整備を考える。
	事前・事後学習	水俣病の発生から今日の救済に至るまで経緯と問題点をまとめる。(第4章)
7	学習の主題	生活環境におけるリスクとリスクマネジメント
	授業内容	日常生活におけるリスク、特に化学物質による環境汚染を健康リスク、福利リスクの面からとらえ、安全管理の手法を基に対策を探る。
	事前・事後学習	リスクアセスメントについて調べる。(第5章)
8	学習の主題	感染症と生体防御、免疫システムについて
	授業内容	非自己から自己を守る免疫を生体防御システムとして概説し、ストレスを免疫システムのバランスを崩す因子ととらえ、病気との関連を考察する。
	事前・事後学習	最近のがんの免疫療法研究について調べる。(第6章)
9	学習の主題	生活のグローバル化と新興感染症について
	授業内容	グローバル化に伴って拡大する重篤な感染症、特に新興感染症について特性を概説し、予防や対策について考える。(第7章)
	事前・事後学習	新型インフルエンザの発生から現在に至る状況を調べる。
10	学習の主題	放射線の特性と健康影響について
	授業内容	放射線の特性とその健康影響の概要を理解して、放射性物質の管理について考える。
	事前・事後学習	放射線によるヒトへの影響について調べる。(第8章)
11	学習の主題	生活環境の変化とアレルギーについて
	授業内容	文明病とされるアレルギーについて、アトピー素因と生活環境の変化、アレルギー発症のメカニズムから論説する。
	事前・事後学習	アレルギーの発症メカニズムと化学物質過敏症について調べる。(第9章)
12	学習の主題	生活リズムと生体リズム、生活習慣病について
	授業内容	からだのリズムと生体リズム、生活リズムとの関連をとらえ、代謝リズムの破綻として生活習慣病を再考する。
	事前・事後学習	好ましい生活習慣の各項目について理由を研究成果から説明する。(第10章)
13	学習の主題	生活環境における癒しと植物や風景
	授業内容	人の生活圏の拡大、大規模開発によって生物種が急速に減少して多様性を失うことの問題点を解説し、それらを保護・保全しようという活動につながる癒しとビオトープについて考える。
	事前・事後学習	生物多様性を失うことの問題点を調べる。(第11章)
14	学習の主題	社会・生活環境における情報の利活用と予防原則について考える。
	授業内容	社会活動の拡大や生活環境の整備には、情報の共有が大きな役割を果たしている。情報伝達の歪みや不均衡、錯誤は QOL や心身の健康にも関連していることを概説し、利活用の方向を探る。予防原則の考え方を理解する。
	事前・事後学習	OA 機器とメンタルヘルスとの関係を調べる。(第12章) 予防原則の適用事例について調べる。(第13章)
15	学習の主題	地球温暖化の進行と健康問題について
	授業内容	人為活動による地球温暖化が急速に進んでいることの観測データや今後の推測を紹介し、気候変動に伴う生活環境の変化が人の健康に与える影響を検討し、対応を提案する。また、リスクへの対応について考え方を理解する。
	事前・事後学習	地球シミュレーションが行っている温暖化予測と生物種への影響についてまとめる。(第14章)

学習の主題・
授業内容

授業科目	教育学 Education	担当教員	所 伸一
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	人間の可能性と社会における教育の役割について歴史と現状から知見を提供するとともに、生涯学習社会における家庭教育や学校教育及び市民教育の課題と解決方向についてヒントを示す。		
到達目標	受講者自身が今後経験する生涯学習の場面において自立した学習者として成長していく手がかりを得ること。		
テキスト	使用しない。適宜、プリント資料を配布する。		
参考書	なし		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験		学校教育と家庭教育、生涯教育、地域生活における現状と課題を中心に、中間と講義末にレポート提出を課す。その論証度と構成員による。授業態度及びレポート時や講義後の感想文などを「その他」対象とし、理解の努力を評価する。
	レポート	70%	
	小テスト		
	提出物		
その他	30%		
履修上の留意事項	授業中または復習により生じた疑問はその都度担当教員に質問すること（出席カード余白の利用も可）		
実務経験を活かした教育内容			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	近代の教育思想 (1)
		授業内容	ルソーの「子供の発見」、発達の思想、充実した生涯の提起
		事前・事後学習	事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる
	2	学習の主題	近代の教育思想 (2)
		授業内容	市民革命とコンドルセの家庭観・学校観・学問観。
		事前・事後学習	事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる
	3	学習の主題	「新教育」の思想
		授業内容	学びの転換：デューイの思想と実験。子供研究の始まり
		事前・事後学習	事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる
	4	学習の主題	近代学校のあゆみ
		授業内容	ルターの義務就学論。アダム・スミスの公教育観。国家の学校政策関与
		事前・事後学習	事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる
	5	学習の主題	日本の文明化と教育
		授業内容	西洋からの学び。福沢諭吉の一身独立の思想
		事前・事後学習	事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる
	6	学習の主題	日本の学校制度の成立
		授業内容	森有礼の啓蒙と国家主義。鑑三の諭吉批判。ルソーと大正自由教育
		事前・事後学習	事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる
	7	学習の主題	戦後日本の教育
		授業内容	「真の個人主義」、「高度成長」と競争教育、市民育成棚上げ
		事前・事後学習	事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる
	8	学習の主題	教育環境の変化と青年
		授業内容	「冷戦」以後の世界と青年。能力観・学校観の転換への期待
事前・事後学習		事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる	

授業科目	社会貢献と活動 Volunteer and Social Responsibility	担当教員	神内 秀之介
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	『地域共生社会』という新しい地域福祉の概念が地域包括ケアシステムの構築のその先に謳われている。地域共生社会が目指すのは、対象者ごとの保険・医療・福祉サービスを「縦割り」から「丸ごと」へ、支援者と被支援者という二律対抗軸からの脱却へと転換していくことにある。 医療・保健・福祉の枠組が変更される中で、ボランティアの意義を踏まえ、多種多様なボランティア活動が地域にどう関わって、どう地域を変え、支えているのかについて学ぶ。 特に本学に関連する保険、医療、栄養、福祉などの領域で、地域でのボランティア活動の具体例を通して、当事者や地域ニーズを知り、地域住民・事業所・専門職等との連携などについて学ぶ。 また、専門職としてのボランティアを考える際の「プロボノ」などの新しい概念についても専門職となった将来を見据え理解を深め自身の受け止め方について考察する。		
到達目標	1. ボランティア活動の意義を正しく理解するとともに、ボランティア活動を通して当事者のニーズを把握できること。 2. 当事者のニーズに対して、専門職のあり方やネットワークの構成などの要件について学び、ボランティアの役割・あり方・限界などについて理解できること。 3. 現代社会のボランティアの多様性を理解し、これからの社会に求められているボランティア像を自分なりに描くことができること。		
テキスト	内容に沿った資料を随時配布する。		
参考書	1. 柴田謙治・原田正樹・名賀亨編「ボランティア論～「広がり」から「深まり」へ～」(みらい) 2010 2. 佐谷恭・中谷健一・藤木穰「つながりの仕事術「コワーキング」を始めよう」(洋泉社) 2012 3. 岩見太市著「地域家族の時代」(筒井書房) 2012		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	50%	目標の到達状況を下記の方法で評価する。 講義の際のレポートや発表、グループワークでの役割遂行など授業態度を点数化し、50%を上限として評価します。並びに定期試験も50%を上限とし、授業態度・試験の得点を合わせて総合的に評価します。
	レポート	30%	
	小テスト		
	提出物		
その他	20%		
履修上の留意事項	グループワーク(演習)、ゲストスピーカーを多用します。また、ボランティア実践を予定しています。		
実務経験を活かした教育内容			
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1	学習の主題	ボランティアとは？
		授業内容	オリエンテーション 自分のボランティア経験を発表 ボランティアに対する自分なりの理解
		事前・事後学習	ボランティア経験を振り返ること
	2	学習の主題	ボランティア活動の沿革
		授業内容	諸外国でのボランティア活動の歴史と我が国でのボランティア活動の歩みを学ぶ。
		事前・事後学習	北海道で活動しているボランティア団体で20年以上続いている団体をひとつ挙げる
	3	学習の主題	ボランティア活動の内容
		授業内容	ボランティア活動の内容を、領域別、対象別、方法別に検討する。
		事前・事後学習	自分がしてみたいボランティア活動を考えること
	4	学習の主題	社会福祉協議会とボランティア
		授業内容	社協の幅広いボランティア活動について学ぶ。
		事前・事後学習	社協の仕事をHPで確認すること

回数 (担当)	項目	内容
5	学習の主題	医療・高齢・障害福祉とボランティア
	授業内容	医療・高齢者福祉や障害者福祉の分野でのボランティア活動について学ぶ。
	事前・事後学習	医療・高齢者福祉や障害者福祉で実際に行われているボランティア活動をひとつ挙げる
6	学習の主題	児童福祉とボランティア
	授業内容	児童分野でのボランティア活動について学ぶ。
	事前・事後学習	児童分野で実際に行われているボランティア活動をひとつ挙げる
7	学習の主題	NPO・NGO とボランティア
	授業内容	NPO や NGO のボランティア活動、国際ボランティアなどについて学ぶ。
	事前・事後学習	ボランティアを主体的な活動としている NPO 団体を 2 つ挙げる
8	学習の主題	企業・労働組合とボランティア
	授業内容	企業の CSR、労働組合のボランティアの取組、様々な組織の社会貢献活動について学ぶ。
	事前・事後学習	企業の CSR レポートをひとつは HP で確認すること
9	学習の主題	環境・災害ボランティア
	授業内容	環境ボランティア、災害ボランティアについて学ぶ。
	事前・事後学習	環境ボランティア、災害ボランティアに取り組む団体をそれぞれひとつ挙げる
10	学習の主題	ボランティア実習
	授業内容	1 日ボランティア体験をする。
	事前・事後学習	実習先の情報を HP で調べる
11	学習の主題	ボランティア体験を振り返る
	授業内容	ボランティア体験から得られた知見を発表し振り返る。
	事前・事後学習	ボランティア体験をまとめておく
12	学習の主題	ボランティアのコーディネート
	授業内容	ボランティアをコーディネートする技術について学ぶ。
	事前・事後学習	『ボラナビ』を読んでおく
13	学習の主題	ボランティア組織の運営
	授業内容	ボランティア組織の立ち上げ、運営、資金、PR などについて学ぶ。
	事前・事後学習	助成金情報を調べる
14	学習の主題	現代社会とボランティア
	授業内容	現代社会におけるボランティアのあり方をディスカッションする。
	事前・事後学習	現代社会で支援が必要な人について考察すること
15	学習の主題	私たちのボランティア論
	授業内容	自分たちが理想的と考えるボランティアのあり方をまとめ、プレゼンテーションする（具体的なボランティア提供を前提として）。
	事前・事後学習	ボランティアのための事業について企画すること

学習の主題・
授業内容

授業科目	薬理学 Pharmacology		担当教員	町田 拓自
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位	
授業目的	薬物治療においては、医師・薬剤師・看護師の三者の連携が重要である。看護師は患者と接する機会が最も多く、薬物治療を受けている患者の回復に果たす役割は大きい。本科目では、薬物に対する生体側の応答及び治療効果、有害作用の機序を学習し、その上で様々な疾患に対する治療薬についての基礎的知識の習得を目指す。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における薬物治療とは何かについて理解する。 2. 薬の作用形式、体内動態について理解する。 3. 薬効に影響する因子、薬物の有害作用について理解する。 4. 臓器別、疾患別に使用される薬物を列挙できるようにする。 5. 各薬物の薬理的性質、副作用を説明できるようにする。 			
テキスト	吉岡光弘、泉 剛、井関 健 著「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学」(医学書院)			
参考書	井上智子、窪田哲朗 編「系統看護学講座 別巻 臨床薬理学」(医学書院) 荻田喜代一、首藤誠 編「看護学テキスト 薬理学」(南江堂)			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	80%	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60点以上を合格とする。 定期試験：80% レポート：20% 全講義内に計4回、レポート課題を提示する。そのレポート内容により評価する。(各5%、合計20%)	
	レポート	20%		
	小テスト			
	提出物			
その他				
履修上の留意事項	薬理学を習得するには、事前に形態機能学、病態学等を学んでおく必要がある。1年次に習得したこれらの関連科目を事前に復習しておくこと。各授業の前に1時間の予習、後に1時間の復習を要する。			
実務経験を活かした教育内容				
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	総論1：薬物治療の目指すもの	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・薬を用いて病気を治療する意義について理解する。 ・治療に用いる薬物に求められる基本的性質を理解する。 	
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト(P4～P23)を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題(P13、P23)を解いておく。	
	2	学習の主題	総論2：薬はどのように作用するのか	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・薬理作用の基本形式について理解する。 ・薬の治療域と作用点について理解する。 ・薬の投与経路について理解する。 	
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト(P23～P40)を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題(P40)を解いておく。	
	3	学習の主題	総論3：薬はどのように体内をめぐっていくのか 薬効に影響する因子	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)を理解する。 ・生物学的半減期と薬物血中濃度の意義について理解する。 ・年齢、遺伝により薬効が影響を受けることを理解する。 ・薬物相互作用を理解する。 	
事前・事後学習		事前学習：該当範囲についてテキスト(P40～P54)を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題(P44、P54)を解いておく。		

回数 (担当)	項目	内容
4	学習の主題	総論 4 : 薬物の有害作用はなぜおこるのか、薬の管理と新薬の誕生
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過量投与による有害作用について理解する。 ・ 薬物使用の有益性と有害性について理解する。 ・ ある臓器に特有の有害作用をおこす薬について理解する。 ・ 管理に注意を要する医薬品について理解する。 ・ 新薬の開発の流れを理解する。
	事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト (P54~P61) を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題 (P61) を解いておく。
5	学習の主題	各論 1 : 抗感染症薬
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症治療に関する基礎事項を理解する。 ・ 各抗菌薬の作用機序、副作用について理解する。 ・ 特殊な感染症の治療薬について理解する。 ・ 感染症の治療における問題点を理解する。
	事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト (P66~P93) を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題 (P93) を解いておく。
6	学習の主題	各論 2 : 抗がん薬、免疫治療薬
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ がん治療に関する基礎事項を理解する。 ・ 各抗がん薬の作用機序、副作用について理解する。 ・ 免疫反応のしくみについて理解する。 ・ 免疫抑制薬、増強薬について理解する。 ・ 予防接種薬について理解する。
	事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト (P96~P120) を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題 (P108、P120) を解いておく。
7	学習の主題	各論 3 : 抗アレルギー薬・抗炎症薬
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬について理解する。 ・ 炎症のしくみと抗炎症薬について理解する。 ・ 関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬について理解する。 ・ 片頭痛治療薬について理解する。
	事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト (P122~P136) を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題 (P136) を解いておく。
8	学習の主題	各論 4 : 末梢での神経活動に作用する薬物
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自律神経系について理解する。 ・ 交感神経作用薬について理解する。 ・ 副交感神経作用薬について理解する。 ・ 筋弛緩薬、局所麻酔薬について理解する。
	事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト (P136~P156) を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題 (P155) を解いておく。
9	学習の主題	各論 5 : 中枢神経系に作用する薬物 - 1
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全身麻酔薬について理解する。 ・ 催眠薬、抗不安薬について理解する。 ・ 統合失調症治療薬について理解する。 ・ 抗うつ薬について理解する。 ・ パーキンソン症候群治療薬について理解する。
	事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト (P158~P177) を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題 (P188) を解いておく。

学習の主題・
授業内容

回数 (担当)	項目	内容
10	学習の主題	各論 6：中枢神経系に作用する薬物 - 2、 心臓・血管系に作用する薬物 - 1
	授業内容	・抗てんかん薬について理解する。 ・麻薬性鎮痛薬について理解する。 ・高血圧治療薬について理解する。 ・狭心症治療薬について理解する。 ・うっ血性心不全治療薬について理解する。
	事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P177～P200）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P188、P277）を解いておく。
11	学習の主題	各論 7：心臓・血管系に作用する薬物 - 2
	授業内容	・抗不整脈薬について理解する。 ・利尿薬について理解する。 ・脂質異常症治療薬について理解する。 ・血液に作用する薬物について理解する。
	事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P201～P228）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P277、P278）を解いておく。
12	学習の主題	各論 8：呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物
	授業内容	・呼吸器系に作用する薬物について理解する。 ・消化器系に作用する薬物について理解する。 ・生殖器系に作用する薬物について理解する。
	事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P230～P248）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P248、P249）を解いておく。
13	学習の主題	各論 9：物質代謝に作用する薬物
	授業内容	・ホルモンおよびホルモン拮抗薬について理解する。 ・治療薬としてのビタミンについて理解する。
	事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P250～P264）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P264）を解いておく。
14	学習の主題	各論 10：皮膚科用薬 ・眼科用薬 ・救急の際に使用される薬物
	授業内容	・皮膚に使用する薬物の特徴を理解する。 ・眼科用薬について理解する。 ・救急蘇生時に用いられる薬物について理解する。 ・救急・急変時の症候に対して用いられる薬物について理解する。 ・急性中毒に対する治療薬について理解する。
	事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P266～P287）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P276、P286）を解いておく。
15	学習の主題	各論 11：消毒薬 ・輸液剤および輸血製剤
	授業内容	・消毒薬とは何かを理解する。 ・輸液とは何かを理解する。 ・おもな輸液剤を理解する。 ・輸血とは何かを理解する。 ・主な輸血製剤を理解する。
	事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P298～P316）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P302、P316）を解いておく。

授業科目	栄養代謝学 Nutrition and Metabolism	担当教員	渡辺 いつみ、金高 有里、岡本 智子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	栄養に関する知識を習得、看護業務にのっての栄養学を学ぶ意義や大切さを知る。		
到達目標	栄養学・食品学・代謝・消化吸収などの基礎知識と最新の臨床栄養、栄養ケアマネジメントなどを習得し、栄養問題に対する対処方法を学習する。		
テキスト	「よくわかる専門基礎講座 栄養学」(金原出版)		
参考書	なし		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	94%	到達目標の達成度を定期試験 (94%)・提出物 (6%) の結果により総合的に評価する。 各担当の評価割合は以下の通り。 渡辺 40%：定期試験 37% 提出物 3% 金高 47%：定期試験 44% 提出物 3% 岡本 13%：定期試験 13%
	レポート		
	小テスト		
	提出物	6%	
その他			
履修上の留意事項	人間栄養学と看護の関連性を認識してほしい。		
実務経験を活かした教育内容			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (渡辺)	学習の主題	ガイダンス・栄養管理とは
		授業内容	ガイダンス、健常者と傷病者の栄養管理、保険制度と栄養・食事
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
	2 (金高)	学習の主題	体の構成と食事栄養
		授業内容	人体の構成成分、食品の栄養素、代謝、酵素、エネルギー、食事摂取基準
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
	3 (金高)	学習の主題	糖質の消化・吸収・代謝
		授業内容	糖質の構造、消化、吸収、代謝
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
	4 (金高)	学習の主題	脂質の消化・吸収・代謝
		授業内容	脂質の構造、消化、吸収、代謝
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
	5 (金高)	学習の主題	蛋白質の消化・吸収・代謝
		授業内容	蛋白質とアミノ酸、消化、吸収、代謝
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
	6 (金高)	学習の主題	エネルギー代謝
		授業内容	食事エネルギー、エネルギー消費、体内エネルギー貯蔵、肥満と痩せ
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
	7 (金高)	学習の主題	水と電解質、ビタミン
		授業内容	水と血液、pH、ミネラル、ビタミン
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
	8 (金高)	学習の主題	代謝の調節と異常
		授業内容	遺伝子、ホルモン、神経、代謝病 (メタボリックシンドローム)
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
	9 (渡辺)	学習の主題	ライフサイクルと栄養
		授業内容	乳幼児期、学童期、思春期、青年期、妊娠期、老年期
事前・事後学習		教科書を読んでおくこと。	

回数 (担当)	項目	内容
10 (渡辺)	学習の主題	栄養管理の実際 1
	授業内容	栄養ケアとは、臨床および介護における栄養ケアと食事、日本人の食事摂取基準
	事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
11 (渡辺)	学習の主題	栄養管理の実際 2
	授業内容	栄養評価方法（スクリーニング・アセスメント）と栄養計画
	事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
12 (岡本)	学習の主題	栄養投与方法
	授業内容	経口栄養・経腸栄養・経静脈栄養
	事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
13 (岡本)	学習の主題	チーム医療
	授業内容	栄養管理とチーム医療の実際
	事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
14 (渡辺)	学習の主題	疾患と栄養 1
	授業内容	内分泌疾患、腎疾患、消化器疾患の栄養管理
	事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
15 (渡辺)	学習の主題	疾患と栄養 2、まとめ
	授業内容	低栄養、その他の疾患の栄養管理
	事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。

授業科目	臨床心理学 Clinical Psychology	担当教員	松岡 紘史
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	臨床心理学は、さまざまな問題の理解と解決に心理的要因が大きく関与していると思われる個人を心理学的な立場から理解し、問題解決を図ろうとする学問である。臨床心理学を支える理論にはさまざまなものがあるが、近年は認知行動的な立場から問題を理解し解決を図る行動理論に基づく考え方が主流となっている。本講義では、臨床心理学の基本的な考え方を概説するとともに、行動理論による問題の理解と解決方法を解説しながら、最新の臨床心理学の進歩について学ぶ。		
到達目標	行動理論の観点から問題にアプローチする方法を学習するとともに、医療現場で実際の患者さんに行動理論の考え方がどのように応用されているかを理解することを通して、自らの身近な問題や看護実践においても行動理論の考え方を応用できるようになることを目標とする。		
テキスト	指定しない。毎回プリントを配布する。		
参考書	坂野雄二ら「ベーシック臨床心理学」(有斐閣) 鈴木伸一ら「実践家のための認知行動療法テクニックガイド」(北大路書房) 松岡紘史・安彦善裕「歯科医師・歯科衛生士のための認知行動療法—チェアサイドで困ったときに」(医歯薬出版)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	70%	講義中に授業内容に応じた知識理解を確かめる小テストを合計8回実施する。試験では講義内容の知識理解とともに、臨床心理学の知識を実際の問題に結びつけることができるかを評価する。
	レポート		
	小テスト	30%	
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	講義で学んだ内容がどのように実践できるかを考えながら受講すること。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者(公認心理師)の立場から、医療機関での臨床心理学の実戦経験を講義におりませながら、臨床心理学を用いた患者理解・対応について講義を行う。		
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1	学習の主題	臨床心理学とは
		授業内容	臨床心理学で対象となる問題行動や不適応症状を学習するとともに、どのような領域で臨床心理学が利用されているかを理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。
	2	学習の主題	アセスメント
		授業内容	臨床心理学で用いられる種々のアセスメント方法について理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。
	3	学習の主題	臨床心理学の諸理論
		授業内容	臨床心理学を代表する、精神力動的理論、人間性心理学について学び、それぞれの理論的立場の異同について理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。
	4	学習の主題	行動理論：学習理論
		授業内容	行動理論の基盤となる学習心理学の基礎理論とその臨床応用について理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。
	5	学習の主題	行動理論：機能分析
		授業内容	臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、問題行動の理解の仕方の一つである機能分析を理解する。
事前・事後学習		配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6	学習の主題	行動理論：行動のコントロール
		授業内容	臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、行動のコントロールに関するアプローチを理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。
	7	学習の主題	行動理論：認知のコントロール
		授業内容	臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、認知のコントロールに関するアプローチを理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。
	8	学習の主題	行動理論：気分・感情のコントロール
		授業内容	臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、気分・感情のコントロールに関するアプローチを理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。

授業科目	疾病治療論Ⅰ Disease Therapeutics		担当教員	千葉 仁志、小林 清一
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位	
授業目的	临床上重要な内科系疾患について、系統別に病態、診断法、治療法について学修する。			
到達目標	1. 疾患が生じる原因と病態についてしっかり理解する。 2. 疾患の主な診断法について理解する。 3. 疾患を治療するにあたって採りうる方法と注意点について理解する。			
テキスト	浅野嘉延、吉山直樹 編集「看護のための臨床病態学 改訂4版」(南山堂)、 毎回の授業で配布するレジュメ			
参考書	「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2].[3].[4].[5].[6].[7].[8].[9].[11].[13].[14]」(医学書院)			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	100%	定期試験：千葉 88%、小林 12%の割合で評価する。試験では、重要な疾患について病態・診断・治療に関する基本的知識が確実に身につけているかという観点から評価する。試験形式は多肢選択式である。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
その他				
履修上の留意事項	疾患を理解するには、解剖学と生理学の基礎的知識が必要となるので、テキストの「解剖と生理」でこれまでの知識を復習し、更に「症候」「検査」の項目を読んでから、講義に臨むこと。理解できない点は、講義後に教室やオフィスで教員に質問して解決すること。レジュメやテキストの情報量が多いので、十分な時間をかけて学習し(予習・復習に各30分以上)、さらに反復学習することが大切である。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、医師として重要と判断する事項や理解が難しい事項については特に丁寧に授業を行い、理解を助けます。			
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容	
	1 (千葉)	学習の主題	科目ガイダンス / 呼吸器疾患と治療(1)	
		授業内容	呼吸器疾患の分類と呼吸器感染症 かぜ症候群とインフルエンザ、肺炎	
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。	
	2 (千葉)	学習の主題	呼吸器疾患と治療(2)	
		授業内容	肉芽腫性病変と肺血栓・塞栓症、腫瘍 肺結核、サルコイドーシス、静脈血栓塞栓症、肺癌	
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。	
	3 (千葉)	学習の主題	循環器疾患と治療(1)	
		授業内容	心臓の疾患と治療 先天性心疾患、心臓弁膜症、虚血性心疾患、心筋疾患、不整脈、心不全	
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。	
	4 (千葉)	学習の主題	循環器疾患と治療(2)	
		授業内容	血管の疾患と治療 高血圧症、動脈硬化症、大動脈解離、大動脈瘤、大動脈炎症候群、末梢動静脈疾患	
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。	

回数 (担当)	項目	内容
5 (千葉)	学習の主題	消化器疾患と治療（１）
	授業内容	食道、胃・十二指腸の疾患と治療 胃食道逆流症、食道裂孔ヘルニア、食道アカラシア、食道静脈瘤、マロリー・ワイス症候群、食道癌、急性・慢性胃炎、胃アニサキス症、消化性潰瘍、胃癌
	事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
6 (千葉)	学習の主題	消化器疾患と治療（２）
	授業内容	大腸・肛門の疾患と治療 薬剤性大腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、虚血性大腸炎、大腸ポリープ、大腸癌、過敏性腸症候群、虫垂炎、腸閉塞、痔核
	事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
7 (千葉)	学習の主題	肝臓・胆嚢・胆管・膵臓の疾患と治療
	授業内容	急性ウイルス性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、アルコール性肝障害、脂肪肝、肝癌、胆石症、胆嚢ポリープ、急性・慢性膵炎、膵癌
	事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
8 (千葉)	学習の主題	代謝性疾患と治療
	授業内容	糖代謝、脂質代謝、尿酸代謝疾患と治療 糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群、痛風、骨粗鬆症、ビタミン欠乏症・過剰症
	事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
9 (千葉)	学習の主題	内分泌（１）
	業内容	視床下部・下垂体疾患・甲状腺疾患と治療 視床下部・下垂体腫瘍、下垂体機能低下症、尿崩症、バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍
	事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
10 (千葉)	学習の主題	内分泌（２）
	授業内容	副甲状腺疾患・副腎疾患と治療 副甲状腺機能亢進症・低下症、クッシング症候群、アジソン病、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫
	事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
11 (千葉)	学習の主題	腎・泌尿器
	授業内容	腎・泌尿器疾患と治療 急性糸球体腎炎、IgA腎症、糖尿病腎症、ネフローゼ症候群、腎不全、腎盂腎炎、腎癌、尿路結石症、急性膀胱炎、前立腺肥大症、前立腺癌
	事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
12 (小林)	学習の主題	脳・神経・筋
	授業内容	脳・神経疾患、筋疾患と治療 脳血管障害、神経変性疾患、脱髄性疾患、末梢神経疾患、重症筋無力症、筋疾患
	事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
13 (千葉)	学習の主題	血液
	授業内容	赤血球疾患、出血性疾患と治療 貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血小板減少症、凝固因子異常、播種性血管内凝固症候群
	事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。

学習の主題・
授業内容

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	14 (千葉)	学習の主題	眼・耳鼻咽喉・皮膚
		授業内容	眼・耳鼻咽喉・皮膚の疾患と治療 結膜炎、緑内障、白内障、糖尿病性網膜症、網膜色素変性症、鼻出血、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、中耳炎、メニエール病、扁桃炎、咽頭炎、舌癌、咽頭癌・喉頭癌、熱傷、褥瘡、アトピー性皮膚炎、带状疱疹
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
	15 (小林)	学習の主題	膠原病・アレルギー
		授業内容	膠原病、アレルギー性疾患と治療 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症、多発性筋炎・皮膚筋炎、血管炎症候群、シェーグレン症候群、抗リン脂質抗体症候群、アレルギー疾患
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。

授業科目	疾病治療論Ⅱ Pathophysiology and Surgical Treatment		担当教員	深井 原
対象年次・学期	看護学科・2年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位	
授業目的	外科治療の基礎的な考え方や外科的診断学、手術手技、治療過程を学ぶとともに、個別の外科治療の臨床を通じて外科領域の疾病治療を学ぶ。			
到達目標	創傷治療、外科手技、麻酔学など外科治療の基礎と消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、脳神経外科、心血管外科などの概要を理解できる。			
テキスト	開講時に指示する。			
参考書	「系統看護学講座 臨床外科看護各論」(医学書院)、「標準外科学」(医学書院)			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	2/3以上の出席がない場合、定期試験の受験資格はありません。適宜行う小テストと併せて、目標の到達状況を評価します。	
	試験	90%		
	レポート			
	小テスト	10%		
	提出物			
その他				
履修上の留意事項	講義開始前に各自形態機能学、病態学、疾病治療論Ⅰの該当する疾患を復習すること。重要事項は適宜講義中に示しますので、授業は欠席しないようにしてください。			
実務経験を活かした教育内容				
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	外科治療の歴史、外科的診断法、創傷治療の原理を理解する	
		授業内容	外科の歴史と手術、外科的診断学とは、創傷治療とこれを阻害する因子、手術手技の基本、外傷の分類とその治療について	
		事前・事後学習	形態機能学を復習すること	
	2	学習の主題	麻酔学：局所麻酔と全身麻酔、術中モニターを理解する	
		授業内容	手術に必要な局所麻酔、全身麻酔について、麻酔の5大要素、具体的な麻酔法を供覧する	
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること	
	3	学習の主題	滅菌法、滅菌法について学ぶ。基本的な外科処置とくに縫合法、ドレナージ、デブリードマン等を理解する。	
		授業内容	消毒の歴史と外科手術の進歩、滅菌法の種類と適応について縫合法、ドレナージとは、デブリードマンの原理について	
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること	
	4	学習の主題	消化管手術を理解する	
		授業内容	消化器の形態機能と疾病：上部消化管の疾患と外科治療 食道癌、胃癌の手術の実際と術後合併症	
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること 疾病治療論Ⅰの該当箇所を復習すること（消化管の疾患）	
	5	学習の主題	消化管手術を理解する	
		授業内容	大腸の手術 直腸癌と直腸温存術式、人工肛門増設、虫垂炎の手術について	
		事前・事後学習	疾病治療論Ⅰの該当箇所を復習すること（消化管の疾患）	
	6	学習の主題	肝・胆・膵の外科治療を理解する	
		授業内容	胆石症の手術：腹腔鏡手術について 肝臓癌の治療と肝切除 膵臓の疾患と外科治療	
		事前・事後学習	形態機能学の肝・胆・膵を復習すること	
	7	学習の主題	呼吸器の外科治療を理解する	
		授業内容	肺癌の手術：肺癌の手術適応、開胸手術、胸腔鏡手術 ブラ縫縮術について	
事前・事後学習		肺癌の診断、治療を予習すること		

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	8	学習の主題	乳腺の外科治療、内分泌外科を理解する
		授業内容	乳癌の外科治療：進行度と手術術式の選択 甲状腺外科
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること
	9	学習の主題	脳神経外科領域の治療を理解する
		授業内容	脳神経外科領域の代表的疾患、脳梗塞、くも膜下出血、脳出血、脳の外傷、脳腫瘍について
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること
	10	学習の主題	心臓血管外科領域の治療を理解する
		授業内容	先天性心疾患と後天性心疾患の外科治療、開心術の実際 虚血性心疾患と大動脈疾患の治療 末梢血管：動脈閉塞、静脈瘤の治療
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること
	11	学習の主題	整形外科の治療内容を理解する
		授業内容	骨折の分類と治療原則 脊椎疾患：椎間板ヘルニア、捻り症、脊柱管狭窄症 骨腫瘍とその治療
		事前・事後学習	形態機能学の骨、筋肉を復習すること
	12	学習の主題	小児外科の疾患と治療を理解する
		授業内容	ヘルニア、先天性消化管疾患、腸重積症、小児腫瘍の治療 小児外科疾患の特殊性と術後管理
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること
	13	学習の主題	泌尿器手術の実際を理解する
		授業内容	腎臓手術、前立腺、膀胱腫瘍の治療 腎臓移植の実際、血液透析とシャント
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること
	14	学習の主題	臓器移植と人工臓器を理解する
授業内容		心臓移植手術、腎臓移植手術の実際、移植医療の問題と展望 人工臓器の進歩	
事前・事後学習		講義中に提示される重要ポイントを復習すること	
15	学習の主題	救急医療と外科治療を理解する	
	授業内容	心肺蘇生法と AED 急性腹症の治療、ショックの分類 死の三徴候と脳死判定 トリアージと災害医療	
	事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること	

授業科目	社会福祉論 Social welfare Theory	担当教員	吉田 竜平
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	<p>少子高齢化の進行や人口減少の段階にある日本では、多くの社会問題が存在している。例えば、高齢者介護、子育て支援、貧困や経済的格差の拡大、社会的孤立・無縁の広まり等である。これらは社会において「一部の特殊な人々」が直面する例外的なものではなく、ライフコースの中で誰もが抱える可能性のある社会的リスクである。そのような「社会生活あるいは人生において個人では解決することが難しい生活問題」への支援や対応策を考え、全ての人々が幸福に暮らすことができるようにすることを志向するのが社会福祉(学)である。本科目では、看護にとって必要と思われる社会福祉の基礎的内容について取り上げ、その理念・機能・対象と支援方法および関連する社会福祉・社会保障制度の概要について学ぶことを目的とする。</p>		
到達目標	<p>①社会福祉の基本概念・理念・機能について理解する。 ②社会福祉における対象と支援方法、課題について理解する。 ③社会保障制度の概要について理解する。 ④社会福祉の専門職について理解する。</p>		
テキスト	なし		
参考書	必要に応じて紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	80%	目標の到達状況を定期試験と提出物(リアクションペーパー)の内容を総合して評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20%	
その他			
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やニュース等での社会保障・社会福祉に関連する報道に関心を持つこと。 ・自分自身、家族、友人、知人等の生活(暮らし)と社会福祉のつながりに注目して講義を受けること。 ・私語等、講義の妨げとなる行為には厳しく対処する。 ・毎回レジュメを配布する。 ・展開内容が一部変更になる場合がある。 		
実務経験を 活かした教育内容			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	社会福祉の基礎概念①
		授業内容	社会福祉という考え方、ライフステージにおける福祉問題、社会福祉の専門職
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
	2	学習の主題	社会福祉の基礎概念②
		授業内容	社会福祉援助の価値、援助原理、対象とニーズ、ノーマライゼーション
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
	3	学習の主題	少子高齢化の動向と社会福祉①
		授業内容	高齢化、介護問題、家族・地域の変化
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
	4	学習の主題	少子高齢化の動向と社会福祉②
		授業内容	少子化、子育て支援、ワークライフバランス、ジェンダー、非正規雇用
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
	5	学習の主題	社会福祉の援助と方法
		授業内容	ソーシャルワークの理論・方法・価値・倫理、エンパワメント、ストレングス、ケアマネジメント
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
	6	学習の主題	社会保障制度の概要
		授業内容	社会保障の目的と機能、社会保険方式と公費負担方式、日本の社会保障制度の体系、ナショナルミニマム
事前・事後学習		授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む	

回数 (担当)	項目	内容
7	学習の主題	貧困と社会福祉
	授業内容	貧困概念、貧困率、子どもの貧困、生活保護
	事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
8	学習の主題	年金保険制度
	授業内容	公的年金制度の概要・近年の制度改正・課題
	事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
9	学習の主題	医療保険制度①
	授業内容	医療保険制度の概要、健康保険、国民健康保険、診療報酬制度
	事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
10	学習の主題	医療保険制度②
	授業内容	近年の医療制度改革の動向と課題
	事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
11	学習の主題	介護保険制度①
	授業内容	介護保険制度の概要
	事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
12	学習の主題	介護保険制度②
	授業内容	近年の制度改革の動向と課題、地域包括ケア
	事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
13	学習の主題	障害者福祉
	授業内容	障害概念、基本理念、関係法律、障害者総合支援法、障害者の権利条約、リハビリテーション
	事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
14	学習の主題	子ども家庭福祉
	授業内容	子ども家庭福祉の理念とサービス、児童養護施設、子育て、子どもの権利、子ども虐待、家族支援
	事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
15	学習の主題	地域福祉
	授業内容	地域福祉の理念と支援、地域共生社会、コミュニティケア、地域福祉活動、まちづくり
	事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む

学習の主題・
授業内容

授業科目	生命倫理 Bioethics	担当教員	森口 眞衣
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	現代の生命倫理に関する一般的問題について、自身の日常的な経験と倫理的判断の関係を理解することにより、基本的な視点や方法を身につける。また、人や生命についての概念の曖昧さを実感し、立場によって異なる見解を受け入れ尊重できる姿勢を養う必要性はどこにあるのか、倫理的議論が展開された歴史的背景を理解することにより、倫理原則と基礎理論、判断の基準、生命の尊厳についての理解を深める。		
到達目標	我々が日常生活で無意識に直面している倫理的問題に対し、自分が適切だと考える判断を下すことができ、さらにその判断の理由を述べるようになる。また、ひとりの人間として自分だけでなく他者の立場も尊重すること、価値観に基づく見解や判断を提示することの重要性を理解できるようになる。		
テキスト	特に指定しない。スライドと配布資料を用いて展開する。		
参考書	必要があればそのつど紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	40%	毎回の講義終了時、授業内容と関連する日常経験や仮想事例を用いた思考実験によるアンケートレポート形式の復習課題 (30%)、および授業内容に関するリアクションコメント (30%) の提出を課す。試験では課題内容を踏まえ設問要求に応えた自身の意見を展開できているかという観点で評価する。
	レポート	30%	
	小テスト		
	提出物	30%	
その他			
履修上の留意事項	倫理的判断の提示には自分の考えを適切な言葉で述べることが重要になる。授業中の課題では文章を書く機会を多く設定しているので、日常生活においても自分の意見を適切な文章で述べられるよう意識すること。		
実務経験を活かした教育内容			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	日常と倫理的判断の関係
		授業内容	倫理的判断は人々の立場や主張の方向性と密接な関係があることを踏まえ、多様性を尊重するという目的に沿う生命倫理での使いどころを理解する。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	2	学習の主題	倫理的判断に必要な具体的原則
		授業内容	日常生活や臨床現場で求められる倫理的判断の根拠や着眼点となる倫理原則について、その必要性和内容を学んだうえで、実際の適用の難しさを考える。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	3	学習の主題	命の判断：それは「人」ですか？
		授業内容	判断主体となる自己の曖昧さを、医学や科学技術の進歩によって新たに出現した様々な「人」を決める判断基準を通して理解する。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	4	学習の主題	命の判断：いまは「健康」ですか？
		授業内容	人が「老いる」とはどういうことか、「健康」と「病気」はどう違うのか、人間の身体におきる様々な変化の境界について考える。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	5	学習の主題	命の判断：これも「殺害」ですか？
		授業内容	科学的医学の発展に伴う「生命」概念の問題を、生殖医療の背景となる歴史的・社会的な側面での変遷を通して理解する。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	6	学習の主題	命の判断：どれが「食物」ですか？
		授業内容	人が生きるうえで「よいもの」を目指した努力の結果「悪いもの」が作り出されてしまうのはなぜなのか、善悪の価値づけについて考える。
事前・事後学習		講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7	学習の主題	命の判断：どちらが「大切」ですか？
		授業内容	社会では「人の命を守る」ことを目標としながら実際には逆のことが起きてしまう矛盾について、歴史的・理論的変遷の決着点を通して理解する。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	8	学習の主題	他者の価値観尊重とは
		授業内容	これまでの考察の結果をふりかえり、自分の判断と他者の判断の相違点や新たな気づきの分析を通して、医療人として多様な価値観の理解が患者理解に有益となる可能性を考察する。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出

授業科目	看護技術論 II Fundamentals of Nursing Skill II	担当教員	小島 悦子、本吉 明美、園田 典子 柏倉 大作、横山 桂子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	2単位
授業目的	看護を計画的・意図的に展開するために、必要な情報を系統的に収集し、分析・解釈・判断していくヘルスアセスメントの技術と、看護上の問題を明確化し、根拠に基づき、個別の解決策を考え、個別の状況に合わせて実施し、その効果を評価する看護過程のプロセスについて学びます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の意義と構成要素を説明できる。 2. 看護過程とヘルスアセスメントの関係について説明できる。 3. ゴードンの 11 の機能的健康パターンの枠組みについて説明できる。 4. ゴードンの 11 の機能的健康パターンの枠組みを用いて対象者の情報を収集し、アセスメントできる。 5. 紙上事例をもとに看護過程（アセスメント、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価）を展開できる。 6. 看護記録の目的と記録様式について説明できる。 7. 患者情報の取り扱いについて説明できる。 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 深井喜代子 編「基礎看護学②基礎看護技術 I」（メヂカルフレンド社） 2. 深井喜代子 編「基礎看護学③基礎看護技術 II」（メヂカルフレンド社） 3. 高橋照子 編「看護学原論」（南光堂） 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道又元裕編「臨床で実際に役立つ疾患別看護過程」（総合医学者） 2. 高木永子監修「看護過程に沿った対症看護」（学研） 3. 日本看護協会編「看護記録および診療情報の取り扱いに関する指針」（日本看護協会出版会） 4. 山内豊明「フィジカルアセスメントガイドブック」（医学書院） 5. 日野原重明編「フィジカルアセスメント」（医学書院） 6. 堺章「目でみるからだのメカニズム」（医学書院） 7. 医療情報科学研究所編「看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント」（メディックメディア） 8. 大久保暢子編「日常生活行動からみるヘルスアセスメント」（日本看護協会出版会） 		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	50％	試験では、到達目標の達成度を評価する(50%)。提出物は、「ヘルスアセスメント」は演習後の記録物について到達目標 4. の達成度で評価する（20%）。「看護過程」は到達目標 5. 紙上事例をもとに看護過程を展開できる達成度を評価する(30%)。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	50％	
その他			
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習の主題ごとにテキストによる予習を行い、講義に臨んでください。 2. 「フィジカルアセスメント」の演習は、指定のテキストや資料を予習して臨んでください。 		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら理解できるように授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (小島)	学習の主題	看護過程の概念と構成要素、看護過程とヘルスアセスメントの関係
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の意義と構成要素 2. 看護過程、ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの関係 3. ゴードンの 11 の機能的健康パターンの枠組みに基づくアセスメント 4. アセスメントの種類と方法を理解する
		事前・事後学習	事前学習：①事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにする ②テキスト 1 の第 2 編看護の共通基本技術の第 1 章ヘルスアセスメントの I・IIを読む
	2 (小島)	学習の主題	ヘルスアセスメントの目的と方法、健康知覚-健康管理パターンのアセスメント
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントの目的、留意点、共通技術 2. 健康歴聴取の目的と方法 3. 一般状態の観察の目的と方法 4. 健康知覚 - 健康管理パターンのアセスメント
事前・事後学習		事前学習：テキスト 1 の第 1 編看護過程と看護記録の第 2 章看護過程の構成要素の I を読む	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 (全担当教員)	学習の主題	健康知覚 - 健康管理パターンのアセスメントの実際 (演習)
		授業内容	1. 一般状態とバイタルサインズを観察する 2. 健康歴を聴取する 3. 収集した情報を整理し、対象者に渡す
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：自分のパターンをアセスメントする
	4 (小島)	学習の主題	栄養 - 代謝パターンのアセスメント (1)
		授業内容	栄養 - 代謝パターンのアセスメント (口腔・咽頭、外皮・リンパ系) の目的と方法
		事前・事後学習	事前学習：テキスト1の第2編看護の共通基本技術の第1章ヘルスアセスメントのⅢ系統的なフィジカルアセスメントの実際の該当箇所を読み理解する
	5 (全担当教員)	学習の主題	栄養 - 代謝パターンのアセスメント (1) の実際 (演習)
		授業内容	1. 栄養 - 代謝パターンのアセスメント (口腔・咽頭、外皮・リンパ系) を行う 2. 収集した情報を整理し、対象者に渡す
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：自分のパターンをアセスメントする
	6 (小島)	学習の主題	栄養 - 代謝パターンのアセスメント (2)、排泄パターンのアセスメント
		授業内容	1. 栄養 - 代謝パターンのアセスメント (腹部) の方法 2. 排泄パターンのアセスメントの目的と方法
		事前・事後学習	事前学習：テキスト1の第2編看護の共通基本技術の第1章ヘルスアセスメントのⅢ系統的なフィジカルアセスメントの実際の該当箇所を読み理解する
	7 (全担当教員)	学習の主題	栄養 - 代謝パターンのアセスメント (2)、排泄パターンのアセスメントの実際 (演習)
		授業内容	1. 腹部のアセスメントを行う 2. 腎臓・膀胱のアセスメントを行う 3. 収集した情報を整理し、対象者に渡す
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：自分のパターンをアセスメントする
	8 (小島)	学習の主題	活動 - 運動パターンのアセスメント (1)
		授業内容	1. 活動 - 運動パターンのアセスメント (肺・胸郭、心・血管系) の目的と方法
		事前・事後学習	事前学習：テキスト1の第2編看護の共通基本技術の第1章ヘルスアセスメントのⅢ系統的なフィジカルアセスメントの実際の該当箇所を読み理解する
9 (全担当教員)	学習の主題	活動 - 運動パターンのアセスメントの実際 (1) (演習)	
	授業内容	1. 肺・胸郭のアセスメントを行う 2. 心・血管系のアセスメントを行う 3. 収集した情報を整理し、対象者に渡す	
	事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：自分のパターンをアセスメントする	
10 (小島)	学習の主題	活動 - 運動パターンのアセスメント (2)	
	授業内容	1. 活動 - 運動パターンのアセスメント (筋・骨格系、神経系：運動機能・反射) の目的と方法	
	事前・事後学習	事前学習：テキスト1の第2編看護の共通基本技術の第1章ヘルスアセスメントのⅢ系統的なフィジカルアセスメントの実際の該当箇所を読み理解する	

回数 (担当)	項目	内容
11 (全担当教員)	学習の主題	活動 - 運動パターンのアセスメント (2) の実際 (演習)
	授業内容	1. 筋・骨格系のアセスメントを行う 2. 運動機能のアセスメントを行う 3. 収集した情報を整理し、対象者に渡す 4. 感覚機能のアセスメントの実施 5. 反射のアセスメントの実施
	事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：自分のパターンをアセスメントする
12 (小島)	学習の主題	認知 - 知覚パターンのアセスメント
	授業内容	1. 認知 - 知覚パターンのアセスメント (高次脳機能・感覚機能・眼・耳・鼻) の目的と方法
	事前・事後学習	事前学習：テキスト1の第2編看護の共通基本技術の第1章ヘルスアセスメントのⅢ系統的なフィジカルアセスメントの実際の該当箇所を読み理解する
13 (全担当教員)	学習の主題	認知 - 知覚パターンのアセスメントの実際 (演習)
	授業内容	1. 高次脳機能・感覚機能のアセスメントを行う 2. 眼・耳・鼻のアセスメントを行う 3. 収集した情報を整理し、対象者に渡す
	事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：自分のパターンをアセスメントする
14 (小島)	学習の主題	自己知覚 - 自己概念パターン、役割 - 関係パターン、セクシュアリティ - 生殖パターン、コーピング - ストレス耐性パターン、価値 - 信念パターン のアセスメント
	授業内容	自己知覚 - 自己概念パターン、役割 - 関係パターン、セクシュアリティ - 生殖パターン、コーピング - ストレス耐性パターン、価値 - 信念パターン のアセスメントの目的と方法
	事前・事後学習	事後学習：自分のアセスメントを完成させる
15 (小島)	学習の主題	ヘルスアセスメントのまとめ
	授業内容	1. ゴードンの11の機能的健康パターンの枠組みを用いたアセスメント のまとめ
	事前・事後学習	事後学習：ゴードンの11の機能的健康パターンの枠組みに基づく分析・ 解釈・判断の視点を復習する
16・17 (小島)	学習の主題	看護過程 (1) (講義・演習)
	授業内容	1. 紙上事例の紹介 2. ゴードンの機能的健康パターンに基づく各パターンの分析・解釈・判断 3. 紙上事例のアセスメントを行う (個人ワーク)
	事前・事後学習	事後学習：ゴードンの機能的健康パターンに整理された情報を確認し、必要 な情報を追加する。分析視点に基づき、事例のアセスメントを行う
18 (小島)	学習の主題	看護過程 (2) (演習)
	授業内容	紙上事例のアセスメントを行う (グループワーク)
	事前・事後学習	事前学習：個人で紙上事例のアセスメントを行う 事後学習：紙上事例のアセスメントを行う (グループワーク)
19 (小島)	学習の主題	看護過程 (3) (演習)
	授業内容	紙上事例のアセスメントを行う (グループワーク)
	事前・事後学習	事前・事後学習：紙上事例のアセスメント (グループワーク)
20 (全担当教員)	学習の主題	看護過程 (4) (演習)
	授業内容	紙上事例のアセスメントを行う (グループワーク)
	事前・事後学習	事前学習：グループのアセスメントを見直す、各パターンのアセスメント結 果をもとに強みと適切に機能していない事柄を抽出する 事後学習：グループでゴードンの11の機能的健康パターンのアセスメント を完成

回数 (担当)	項目	内容
21 (小島)	学習の主題	看護過程 (5) (講義・演習)
	授業内容	1. 関連図と全体像について 2. 関連図と全体像を記載する (個人ワーク)
	事前・事後学習	事後学習: 個人で関連図、全体像を記載する
22 (全担当教員)	学習の主題	看護過程 (6) (演習)
	授業内容	紙上事例の関連図・全体像を考える (グループワーク)
	事前・事後学習	事前・事後学習: 関連図、全体像のグループワーク
23 (小島)	学習の主題	看護過程 (7) (講義・演習)
	授業内容	1. 看護問題の明確化とリストアップ 2. 優先順位の決定 3. 計画立案: 目標と評価日の設定、具体策の立案 4. 紙上事例の看護過程 (個人ワーク)
	事前・事後学習	事前学習: 紙上事例の看護問題の優先度を考える 事後学習: 看護問題リストの作成、計画立案 (個人ワーク)
24 (全担当教員)	学習の主題	看護過程 (8) (講義・演習)
	授業内容	1. 紙上事例の看護過程 (グループワーク)
	事前・事後学習	事後学習: 看護問題をリストアップし、優先順位を考える (グループワーク)、計画を立案する (個人ワーク)
25 (小島)	学習の主題	看護過程 (9) (演習)
	授業内容	紙上事例の看護過程 (グループワーク)
	事前・事後学習	事前・事後学習: 計画を立案する (グループワーク)
26 (全担当教員)	学習の主題	看護過程 (10) (演習)
	授業内容	紙上事例の看護過程 (グループワーク)
	事前・事後学習	事前・事後学習: 看護過程の全てのプロセスを再考する (グループワーク)
27 (小島)	学習の主題	看護過程 (11) (講義・演習)
	授業内容	1. 実施、評価について理解する 2. 紙上事例の看護過程 (グループワーク)
	事前・事後学習	事前学習: テキストを読む 事後学習: 看護過程の全てのプロセスを再考する (グループワーク)
28 (小島)	学習の主題	看護過程 (12) (講義・演習)
	授業内容	1. 看護記録とは 2. 看護記録の法的位置づけ 3. 記録様式と記載時の留意点 4. 紙上事例の看護過程 (グループワーク)
	事前・事後学習	事前学習: テキストを読む 事後学習: 看護過程の全てのプロセスを再考する (グループワーク)
29 (全担当教員)	学習の主題	看護過程 (13) (演習)
	授業内容	看護過程学習成果発表会
	事前・事後学習	事前・事後学習: 看護過程の全てのプロセスを再考し、発表・提出の準備をする (グループワーク)
30 (小島)	学習の主題	看護過程 (14)
	授業内容	看護過程のまとめ
	事前・事後学習	

学習の主題・
授業内容

授業科目	看護技術論Ⅲ Fundamentals of Nursing Skill III	担当教員	小島 悦子、本吉 明美、園田 典子、 柏倉 大作、横山 桂子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	診療に伴う技術における看護師の役割について理解し、診療に伴う看護技術の基本的な知識と技術について学ぶ。また、演習を通して安全・安楽な技術を修得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療に伴う技術における看護師の役割を説明できる。 2. 診療に伴う看護技術の目的と適応を説明できる。 3. 対象者の安全・安楽・自立につながる支援を考えることができる。 4. 身体侵襲を伴う看護技術を根拠に基づき安全・安楽に実施できる。 5. 薬物療法を受ける対象者の支援について説明できる。 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高橋照子編「看護学原論」(南江堂) 2. 深井喜代子編「基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」(メヂカルフレンド社) 3. 深井喜代子編「基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」(メヂカルフレンド社) 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス」(学研) 2. 川島みどり監修「看護技術スタンダードマニュアル」(メヂカルフレンド社) 3. 堺章「目でみるからだのメカニズム」(医学書院) 4. 本庄恵子 他「写真でわかる臨床看護技術①」(インターメディカ) 5. 吉田みつ子 他「写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス」(インターメディカ) 6. 古川祐子 他「写真でわかる看護のための感染防止アドバンス」(インターメディカ) 		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	60%	試験では、到達目標の達成度を評価する(60%)。小テストでは、各単元に必要な知識の理解度を評価する(20%)。提出物は、演習記録の事前・事後学習の取り組み状況と授業態度を含めて評価する(20%)。
	レポート		
	小テスト	20%	
	提出物	20%	
その他			
履修上の 留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習の主題ごとに教科書や専門基礎科目の教科書による予習を行ってください。 2. 演習前に、テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとに、方法や留意点などを復習し、各技術のシミュレーションをしましょう。 3. 演習後は、グループや個人で演習の振り返りを行いましょう。 		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を用いながら看護技術を理解できるように授業を行います。		
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (小島)	学習の主題	ガイダンス、診療のための看護技術
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療に伴う技術の概要 2. 診療に伴う技術における看護師の役割と法的責任 3. 検査や治療における看護師の役割 4. 主な生体検査と検体検査 【課題】 検査に必要な看護について調べる
		事前・事後学習	事前にシラバス・テキストを読んでおく
	2 (柏倉)	学習の主題	感染予防の技術 (1)
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査・診断・治療場面における感染管理の重要性 2. 無菌法概念 3. 無菌操作 【課題】 感染予防に必要な知識について調べる
		事前・事後学習	事前学習：テキスト・資料を読んでおく
	3 (全担当教員)	学習の主題	感染予防の技術 (2) (演習)
		授業内容	無菌操作、滅菌手袋の装着に関する看護技術を実施する
事前・事後学習		事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する	

回数 (担当)	項目	内容
4 (柏倉)	学習の主題	排泄に関する看護技術 (1)
	授業内容	導尿の適応の判断、根拠に基づいた導尿の方法 【課題】導尿に必要な知識について調べる
	事前・事後学習	事前学習：テキスト・資料を読んでおく
5 (全担当教員)	学習の主題	排泄に関する看護技術 (2) (演習)
	授業内容	排尿困難のある患者に対し一時的導尿を実施し、評価する
	事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する
6 (小島)	学習の主題	排泄に関する看護技術 (3)
	授業内容	浣腸の種類と適応、根拠に基づく浣腸の方法 【課題】浣腸に必要な知識について調べる
	事前・事後学習	事前学習：テキスト・資料を読んでおく
7 (全担当教員)	学習の主題	排泄に関する看護技術 (4) (演習)
	授業内容	便秘のある患者に対しグリセリン浣腸を実施し、評価する
	事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う。 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する。
8 (小島)	学習の主題	検査に伴う看護技術 (1)
	授業内容	1. 血液検査の種類と検体の取扱い 2. 採血の看護技術の根拠・留意点、注射器の取扱い 【課題】採血に必要な知識について調べる
	事前・事後学習	事前学習：テキスト・資料を読んでおく
9 (全担当教員)	学習の主題	検査に伴う看護技術 (2) (演習)
	授業内容	採血を実施し、評価する (けっかんくんを使用)
	事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う。 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する。
10 (小島)	学習の主題	与薬の技術 (1)
	授業内容	1. 与薬における看護師の役割 2. 薬物に関する法律 3. 与薬方法とその特徴、薬物整体反応
	事前・事後学習	事前学習：テキスト・資料を読んでおく
11 (小島)	学習の主題	与薬の技術 (2)
	授業内容	1. 注射法の種類とその特徴 2. 皮下注射、筋肉内注射、皮内注射の技術の根拠・留意点 3. 誤薬、感染防止の方法 【課題】与薬に必要な知識を調べる
	事前・事後学習	事前学習：テキスト・資料を読んでおく
12 (全担当教員)	学習の主題	与薬の技術 (3) (演習)
	授業内容	皮下注射、筋肉内注射を実施し、評価する (モデル人形を使用)
	事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う。 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する。
13 (小島)	学習の主題	与薬の技術 (4)
	授業内容	1. 静脈内注射、点滴静脈内注射の特徴 2. 静脈内注射、点滴静脈内注射の技術の根拠・留意点 3. 輸血療法の適応・種類、輸血の技術の根拠・留意点 【課題】静脈内注射や輸血療法に必要な知識を調べる
	事前・事後学習	事前学習：テキスト・資料を読んでおく

学習の主題・
授業内容

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	14 (全担当教員)	学習の主題	事前学習：テキスト・資料を読んでおく
		授業内容	点滴静脈内注射の技術を実施し、評価する（けっかんくんを使用）
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う。 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する。
	15 (全担当教員)	学習の主題	与薬の技術（6）（演習）
		授業内容	紙上事例をもとに与薬における支援を考える
		事前・事後学習	事前学習：提示された課題を所定用紙にまとめる 事後学習：学んだことを所定の用紙に整理する

授業科目	健康教育論 Health Education	担当教員	近藤 明代、安藤 陽子、小川 克子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	様々な健康レベルにある人たちが自己管理能力を高め、健康行動をとることができるように支援することは看護の役割です。その支援のひとつである健康教育について学習します。本科目では、健康教育の基本となる理論と活動方法について学び、個人・集団を対象とした健康教育の企画・実施に必要な知識や技術を習得します。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療の場における健康教育の目的と役割について理解する。 2. 健康教育に用いられる理論・モデルについて理解する。 3. 健康教育の対象である成人の学びの特徴を理解する。 4. 健康教育が行われる場について理解する。 5. 健康教育の方法と媒体の特徴について理解する。 6. 個人・集団に対する健康教育を実施するための計画策定の知識と技術を習得する。 7. 個人・集団を対象とした健康教育の展開を通して、支援に必要な知識・技術・態度を習得する。 		
テキスト	講義の時に資料を配布する。		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特定非営利活動法人 日本健康教育士養成機構編著 「新しい健康教育」(保健同人社) 2. 宮坂忠夫, 川田智恵子, 吉田亨編著「最新保健学講座<別巻 1>健康教育論」(メヂカルフレンド社) 3. 中村裕美子他「標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術」(医学書院) 4. Karen Glanz 他編, 曾根智史他訳「健康行動と健康教育」(医学書院) 5. 宗像恒次「最新行動科学からみた健康と病気」(メヂカルフレンド社) 6. 大西和子, 櫻井しのぶ編「成人看護学 ヘルスプロモーション」(ヌーヴェル・ヒロカワ) 7. 日本健康教育学会編「健康教育ヘルスプロモーションの展開」(保健同人社) 		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	60%	試験(60%)は、到達目標1~6についての内容について実施し、到達度を評価する。 講義内で小テスト(10%)を実施し、行動変容の理論の理解について評価する。 健康教育の演習で作成した計画書の内容(20%)と演習を通しての学びのレポート(10%)を評価する。 上記の各評価の総合で本科目の評価とする。
	レポート	10%	
	小テスト	10%	
	提出物	20%	
その他			
履修上の留意事項	常にヘルスプロモーションの理念を基本にして学習を進めてください。 グループ学習では積極的に意見交換を行い、学びを深めてください。		
実務経験を活かした教育内容	保健師としての実務経験を持つ教員が、実際に健康教育を実施してきた中での事例や体験を紹介しながら、健康教育の展開に必要な知識・技術を理解しやすいように授業を実施します。		
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1 (近藤)	学習の主題	健康教育の特徴
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康教育の考え方(定義、目的) 2. ヘルスプロモーションと健康教育 3. 保健医療活動と健康教育 4. 成人の学びの特徴
		事前・事後学習	事前学習:ヘルスプロモーションについて復習する。
	2 (近藤)	学習の主題	健康行動と行動変容
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活行動とその行動に影響する要因 2. 健康行動と行動変容
		事前・事後学習	事後学習:講義内容を参考に自分自身の生活・健康行動について考える。
	3 (近藤)	学習の主題	健康行動・行動変容を理解するための理論・モデル(1)
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健信念モデル 2. 変化ステージ理論
事前・事後学習		事後学習:参考文献で理論について復習する。	

回数 (担当)	項目	内容
4 (近藤)	学習の主題	健康行動・行動変容を理解するための理論・モデル (2)
	授業内容	1. 変化理論 2. 社会的認知理論
	事前・事後学習	事後学習：参考文献で理論について復習する。
5 (近藤)	学習の主題	保健医療活動における健康教育
	授業内容	1. 健康教育が行われる場 2. 成人期にある対象の健康教育の特徴
	事前・事後学習	事後学習：健康教育の重要性と看護職の役割について復習する。
6 (近藤)	学習の主題	健康教育の方法とその特徴 (1)
	授業内容	1. 健康教育の方法と技術 2. 教育媒体の種類
	事前・事後学習	事後学習：参考文献で教育方法・教育媒体について学びを深める。
7 (近藤)	学習の主題	健康教育の方法とその特徴 (2)
	授業内容	1. 健康教育の展開 2. プリシード・プロシードモデル
	事前・事後学習	事後学習：参考文献で教育方法・教育媒体について学びを深める。
8 (近藤)	学習の主題	健康教育の企画・実施・評価 (1)
	授業内容	・健康教育の準備・企画 (ニーズアセスメント・計画づくり)
	事前・事後学習	事後学習：モデルをもとに健康教育に求められる要素について考える。
9 (近藤)	学習の主題	健康教育の企画・実施・評価 (2)
	授業内容	・健康教育の評価 (評価の目的、評価の種類)
	事前・事後学習	事後学習：モデルをもとに健康教育に求められる要素について考える。
10 (安藤) (小川) (近藤)	学習の主題	健康教育の展開 (準備)
	授業内容	・提示された事例を対象にして、指導案・教育媒体の作成を行う。
	事前・事後学習	事前学習：事例を理解するために必要な知識を復習する。
11 (安藤) (小川) (近藤)	学習の主題	健康教育の展開 (準備)
	授業内容	・提示された事例を対象にして、指導案・教育媒体の作成を行う。
	事前・事後学習	事前学習：事例を理解するために必要な知識を復習する。
12 (安藤) (小川) (近藤)	学習の主題	健康教育の展開 (準備)
	授業内容	・提示された事例を対象にして、指導案・教育媒体の作成を行う。
	事前・事後学習	事前学習：事例を理解するために必要な知識を復習する。
13 (安藤) (小川) (近藤)	学習の主題	健康教育の展開 (準備)
	授業内容	・提示された事例を対象にして、指導案・教育媒体の作成を行う。
	事前・事後学習	事前学習：事例を理解するために必要な知識を復習する。
14 (安藤) (小川) (近藤)	学習の主題	健康教育の展開 (グループ発表・評価)
	授業内容	・作成した指導案に基づいた健康教育を実施する。(ロールプレイ)
	事前・事後学習	健康教育の企画・実施・評価について振り返り、学んだことをレポートにまとめる。(A4判1～2枚程度) 作成した指導案・教育媒体はレポートと共に提出する。
15 (安藤) (小川) (近藤)	学習の主題	健康教育の展開 (グループ発表・評価)
	授業内容	・作成した指導案に基づいた健康教育を実施する。(ロールプレイ)
	事前・事後学習	健康教育の企画・実施・評価について振り返り、学んだことをレポートにまとめる。(A4判1～2枚程度) 作成した指導案・教育媒体はレポートと共に提出する。

学習の主題・
授業内容

授業科目	地域保健医療看護論 Nursing in the Community	担当教員	近藤 明代、石村 珠美、越膳 杏子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	地域で暮らす人々の健康・生活には、地域の様々な環境が大きく影響していることから、人々が抱える健康問題や課題を地域社会の特性と関連づけながら捉え、解決することが求められており、看護職は、どのような健康レベルにある人でも、可能な限り自立し、その地域でその人らしく生活ができることをめざしている。本科目では看護職として地域で暮らす人々をどのように捉え、どのように支援を展開すると良いのかについて学ぶ。また、その問題解決・課題達成のためには看護職だけではなく、多職種・機関との連携・協働が不可欠であることから、保健医療福祉活動の場において活躍する専門職の理解と、看護職との連携・協働の必要性と保健・医療・福祉支援システムについて学修する。		
到達目標	1. 地域で暮らす人々が抱える健康問題と課題について理解する。 2. 地域を基盤とした健康増進・疾病予防の考え方と活動方法の基本を理解する。 3. 健康課題を抱える人々に関わる保健・医療・福祉の専門職の専門性と役割を理解する。 4. 地域における保健・医療・福祉の連携や協働による支援の必要性を理解する。 5. 地域におけるケアシステムの概要について理解する。		
テキスト	講義の時に資料を配布する。		
参考書	1. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向・厚生指針 増刊・2020/2021」(厚生労働統計局) 2. 真船拓子、杉本正子他編集「看護師教育のための地域看護概説」(ヌーヴェルヒロカワ) 3. 高橋紘士・武藤正樹「地域連携論—医療・看護・介護・福祉の協働と包括的支援—」(オーム社) 4. 中村裕美子編「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」(医学書院) 5. 榎本真津「生活を分断しない医療」(ライフ出版社) 6. 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる」(メディックメディア)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	60%	到達目標の達成状況を下記の視点から評価し60点以上を合格とする。 ①定期試験(60点):到達目標に関する試験を実施し、学修の到達度を評価する。 ②課題レポート(20点):講義「専門職の活動の理解」からの学びを評価する。 ③提出物(20%):グループで事例の支援検討を検討した内容から目標の到達度を評価する。
	レポート	20%	
	小テスト		
	提出物	20%	
その他			
履修上の留意事項	わが国における保健医療の課題を関連科目で学んだことや自己学習から捉えてください。そして様々な健康レベルにある対象者が自分らしい生活を送るために、どのような条件が必要であるかを、みなさんの生活、またはご家族の生活をイメージしながら考えてください。看護職以外の職種に関心を持ちながら授業に臨んでください。		
実務経験を活かした教育内容	看護師、保健師としての実務経験を持つ立場から、経験したことを紹介しながら、地域を基盤とした活動に必要な考え方を伝えたいと考えます。また、演習においても地域で生活する人々をイメージできるような事例を紹介しします。		
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1 (近藤)	学習の主題	地域における看護の対象の特徴
		授業内容	地域における看護の対象の捉え方 ・健康レベル ・発達段階(ライフステージ) ・生活モデルと医療モデル
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにする。
	2 (近藤)	学習の主題	地域で暮らす人々の健康問題・課題に影響する要因と支援(1)
		授業内容	1.健康問題や課題に影響する要因 ・家族からの影響、特定集団からの影響、地域・環境からの影響
		事前・事後学習	事後学習:参考文献を活用し、授業で学んだ内容の理解を深める。
	3 (近藤)	学習の主題	地域で暮らす人々の健康問題・課題に影響する要因と支援(2)
		授業内容	1.保健医療福祉活動を理解する際に基本となる考え方 ・プライマリヘルスケア ・ヘルスプロモーション 2.保健医療福祉活動が行われる場 ・保健・医療・福祉サービスの種類・看護活動が展開される場
事前・事後学習		事後学習:参考文献を活用し、授業で学んだ内容の理解を深める。	

回数 (担当)	項目	内容
4-6 (近藤) (石村) (越膳)	学習の主題	事例をもとに必要な支援を検討 (1) ~ (3)
	授業内容	健康問題・課題を抱えた事例の支援を検討 ・提示された事例の健康問題を明らかにする。 ・健康問題の解決のために何が必要かを検討する。 ・地域における保健医療福祉サービスについて調べ、活用可能なサービスを検討する。
	事前・事後学習	事後学習：課題を提出する。
7-8 (近藤) (石村) (越膳)	学習の主題	求められる支援と保健医療福祉サービス (1) (2)
	授業内容	健康問題・課題を抱える人々の関わる保健医療福祉の専門職の理解を深め、活動に対する疑問を明確にする。
	事前・事後学習	事後学習：保健医療福祉の専門職の活動と専門性について理解できたことと疑問点をまとめる。(A4判 1枚程度)
9 (石村)	学習の主題	地域における保健医療福祉チームを構成する専門職の活動の理解 (1)
	授業内容	保健医療福祉の専門職の専門性と役割 ・在宅移行、在宅看護を担う看護師の役割と活動
	事前・事後学習	事後学習：講義内容を復習し、学びを確認する。
10 (石村)	学習の主題	地域における保健医療福祉チームを構成する専門職の活動の理解 (2)
	授業内容	保健医療福祉の専門職の専門性と役割 ・在宅看護を担う訪問看護師の役割と活動
	事前・事後学習	事後学習：自宅で療養する人々への看護の特徴をまとめる。 (A4判 1枚程度)
11 (越膳)	学習の主題	地域における保健医療福祉チームを構成する専門職の活動の理解 (3)
	授業内容	保健医療福祉の専門職の専門性と役割 ・地域包括支援センターの保健師の役割と活動
	事前・事後学習	事後学習：地域包括支援センターの保健師の役割と活動についてまとめる。 (A4判 1枚程度)
12 (近藤)	学習の主題	地域における保健医療福祉チームを構成する専門職の活動の理解 (4)
	授業内容	保健医療福祉の専門職の専門性と役割 ・公衆衛生看護を担う保健師の役割と活動
	事前・事後学習	事後学習：公衆衛生看護の特徴についてまとめる。(A4判 1枚程度)
13 (越膳)	学習の主題	関係職種連携・協働、地域ケアシステムの理解 (1)
	授業内容	地域で生活する人々を支援するために必要な専門職の専門性や特徴、役割 ・関係職種が連携・協働する必要性
	事前・事後学習	事後学習：参考文献を使って授業内容の理解を深める。
14 (越膳)	学習の主題	関係職種連携・協働、地域ケアシステムの理解 (2)
	授業内容	地域で生活する人々を支援するために必要な専門職の専門性や特徴、役割 ・関係する様々な専門職の専門性と、看護職の役割
	事前・事後学習	事後学習：授業で学んだ内容を参考文献を使って理解を深める。
15 (近藤) (石村) (越膳)	学習の主題	まとめ (求められる支援と保健医療福祉サービス)
	授業内容	健康問題・課題を抱える人々の関わる保健医療福祉の専門職の理解を深める。 【方法】9~12回目の講義を受け、再度事例の理解と支援について検討し、その内容をまとめる。
	事前・事後学習	事後学習：再検討した内容をまとめて提出する。

学習の主題・
授業内容

授業科目	看護倫理 Nursing Ethics	担当教員	木津 由美子、園田典子、吉田 祐子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	対象者の生命活動を支援する看護では、人々の多様な価値観の尊重、尊厳と権利の擁護と意思決定を支えつつ、人間的な配慮のある看護実践が求められることから、本科目では看護実践を倫理的観点から理解することを目的にする。具体的には看護倫理の概念を理解し、事例を通して倫理的課題を判断することを学習体験することで、看護職としての基本的倫理観とその態度を培い、看護ケアと関連付けて実践に活用・評価できる基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理の基本的概念を理解する。 2. 看護倫理の基本的概念をもとに、看護事例を通して看護実践における倫理について考える。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護実践に潜在する倫理的問題の理解と明確化 2) 倫理的問題の解決・改善を図るための看護ケアの検討 3. 上記の授業過程を通して、看護者としての倫理的態度について理解する。 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高橋照子編「看護学原論」(南江堂) 2. F. ナイチンゲール、湯楨ます他訳「看護覚え書」(現代社) 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本看護協会編「新版 看護者の基本的責務」(日本看護協会出版会) 2. サラ T. フライ メガン-ジェーン・ジョンストン 著 片田 範子・山本あい子 訳「看護実践の倫理 倫理的意思決定のためのガイド」(日本看護協会出版会) 3. 川村佐和子、志自岐康子、松尾ミヨ子「ナースング・グラフィカ[®] 基礎看護学・看護学概論」(メディカ出版) 4. 岡崎美子他「ケアの質を高めるための看護倫理 (ジレンマを解決するために)」(医歯薬出版) 5. 服部健司他「医療倫理学の ABC」(メヂカルフレンド社) 		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験		目標の到達状況を以下の観点から総合的に評価する。 ・提出物 (20点): グループ発表資料から到達目標への達成状況を評価する。 ・レポート (80点): レポート内容から到達目標の項目別達成度、レポート形式の遵守項目をもとに評価する。
	レポート	80%	
	小テスト		
	提出物	20%	
その他			
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時の態度、チームカンファレンス (グループ学習)、成果発表、レポート作成に関しては、「学習活動の手引き」に則る。 2. 2回目以降の持参図書、資料、事前・事後学習については授業開始時に指示する。 3. 看護基礎実習Ⅱを未履修の場合は、事前に担当員に相談する。 		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床経験に基づく自作の看護事例を提示し、看護技術演習を含めて現場での倫理的問題にチームとして取り組む臨場感のある授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (木津)	学習の主題	看護倫理の基本的概念 (1)
		授業内容	【ガイダンス】 本科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項 看護倫理の基本的概念 (1) 1. 人間と倫理 2. 看護と倫理 3. ナイチンゲールから学ぶ看護倫理
		事前・事後学習	事前学習: 事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく。
	2 (木津)	学習の主題	看護倫理の基本的概念 (2)
		授業内容	1. 看護実践の指針である看護倫理の三つの側面と倫理綱領 2. 看護実習における倫理的態度の基礎 3. 看護実践と倫理: 「抑制と看護」の事例 ・事例に提示した「抑制」とは ・抑制体験に関するガイダンス
		事前・事後学習	事前学習: 「看護者の基本的責務」における「看護者の倫理綱領」を読んでおく。 事後学習: 提示した課題学習を行う。

回数 (担当)	項目	内容
3 (園田) (木津) (吉田)	学習の主題	「抑制と看護」を主題に、看護実践の倫理について考える (1)
	授業内容	1. 抑制体験 (演習) 2. 体験をもとに看護師と患者の立場から「抑制」について考える
	事前・事後学習	事前学習: 「抑制法」に関する資料を読み、方法を確認する。 事後学習: ①抑制体験をまとめる ②提示資料等を読んでおく。
4 (園田)	学習の主題	「抑制と看護」を主題に、看護実践の倫理について考える (2)
	授業内容	1 医療現場における「抑制」の取り組み 1) DVD「縛られない老後」の視聴 2) 抑制体験、資料等をもとに、「抑制」に対する自己の考えをまとめる
	事前・事後学習	事後学習: ①体験をもとに抑制に関する自己の考えをまとめる。 ②事例に関する基礎知識の指定用紙を完成させる。
5 (木津) (園田) (吉田)	学習の主題	看護事例における看護実践のための倫理的判断過程を学ぶ (1)
	授業内容	1 事例 (1) における患者の患者の行動と健康回復の関係性について考える。 1) 事例における「抑制」について自己の考えをまとめる。 2) 事例における「抑制」についてチームで討議しまとめる。
	事前・事後学習	事後学習: 事例検討による倫理的問題 (是非と理由) について考える。
6 (木津) (園田) (吉田)	学習の主題	看護事例における看護実践のための倫理的判断過程を学ぶ (2)
	授業内容	1. 事例 (2) から患者のこれまでの生き方と問題行動の関係性について考える。 2. 事例 (1) (2) をもとに倫理的問題を明らかにする。 3. 倫理的問題を解決するための看護援助を立案する。 4. 事例検討の過程で明らかになった現実の看護体制・組織の問題と改善策を考える。
	事前・事後学習	事後学習: 倫理的問題への看護援助について調べる。
7 (木津) (園田) (吉田)	学習の主題	看護事例における看護実践のための倫理的判断過程を学ぶ (3)
	授業内容	1. 看護事例における倫理的問題と看護援助、改善策を立案する (続き) 2. 発表資料の作成と発表の準備
	事前・事後学習	事後学習: ①チームごとに学習成果を A4 版用紙にまとめ、提出する。 ②効果的なチーム発表のための役割の決定と準備をする。
8 (木津)	学習の主題	チームカンファレンスの成果発表とまとめ
	授業内容	1. 看護チームの発表 2. まとめ
	事前・事後学習	レポート提出: 「看護倫理」の学びについて 2000~2200 字程度にまとめ、提出する。

授業科目	看護理論 Nursing Theories	担当教員	萩野 悦子、木津 由美子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	本科目では、看護理論の意義と歴史的発展、理論としての構成要素、看護の諸理論に共通する下位概念と関係性について理解するとともに、看護現象における理論と技術及び看護過程の関係について理解する。さらに、主たる看護理論を分析的に学習することで、看護実践の基盤となる理論的根拠についての理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践における看護理論の位置づけと意義について理解する。 2. 看護理論の歴史的変遷と分類の特徴を理解する。 3. 看護理論の定義、理論構築の要素について理解する。 4. 看護理論における共通概念および諸理論の基礎を理解する。 5. 事例や自己の看護体験をもとに、看護理論を実践的に活用する。 		
テキスト	関係資料を授業開始時に配付する。		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. J.B. ジョージ、南裕子他訳「看護理論集 第3版」(日本看護協会出版会) 2. A.M. トメイ他、都留伸子監訳「看護理論家とその業績」(医学書院) 3. 金子道子編「看護論と看護過程の展開」(照林社) 4. 筒井真優美編「看護理論」(南江堂) 5. F. ナイチンゲール、湯櫃ます訳「看護覚え書」(現代社) 看護理論に関する文献は、随時紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験		到達目標 1~4 の総合評価として到達目標 5 について授業中の個人学習記録の提出物を定期試験相当とし、学習到達状況を評価する。授業中の個人学習時間の欠席、記録物などの持参に不備があった場合は減点対象とする。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100%	
その他			
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義進行のために事前資料を必ず読み、所定用紙に整理しておくこと。 ・ 受講態度は「学習活動の手引き」の「受講の心構え」に従うこと。逸脱行為と判断した場合は最終評定から減点する。 ・ 第5回目以降は、事例や実習での体験をもとに看護理論を活用する。 		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、理論の意義・目的や各理論家の説明時には臨床経験に基づく場面を例示することで、わかりやすく授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (萩野)	学習の主題	看護実践における理論の位置づけと意義
		授業内容	【ガイダンス】 本科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点 <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論を学ぶ意義と必要性 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護職の発展と看護理論 2) 看護実践と理論発生の関係
		事前・事後学習	講義をもとに、「看護理論を学ぶ各自の目的」をA5版用紙(250字)にまとめる。
	2 (萩野)	学習の主題	看護理論の構築と基礎となる概念
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論を学ぶ意義と必要性(続き) <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護理論の歴史的概観と分類・特徴 2) 看護における実践と理論・研究の環状的性質 2. 看護理論の構築と基礎となる概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護理論の定義と理論構築の要素 2) 看護の諸理論に共通する概念 3. 所定用紙「自分の考える看護とは」をこれまでの講義・演習・実習をもとにまとめる。
事前・事後学習		事後学習:「自分の考える看護とは」を完成させておく。	

回数 (担当)	項目	内容
3 (萩野) (木津)	学習の主題	主たる看護理論の分類と特徴(1)
	授業内容	1. 所定の「自分の考える看護とは」から共通概念を抽出し、各概念について、グループ学習する。(グループ学習) 2. グループ学習の成果を含めて「看護とは何か」をまとめる。(個別学習)
	事前・事後学習	事後学習：授業内容2について所定用紙①を完成させ提出する。
4 (萩野)	学習の主題	主たる看護理論の分類と特徴(2)
	授業内容	1. ナイチンゲールの提唱する看護の理論的特徴 理論家の背景、看護の目的・定義、看護と人間・健康・環境、看護過程
	事前・事後学習	事前学習：ナイチンゲール「看護覚え書」を読んでおく。
5 (木津)	学習の主題	主たる看護理論の分類と特徴(3)
	授業内容	1. ヘンダーソンの提唱する看護の理論的特徴 理論家の背景、看護の目的・定義、看護と人間・健康・環境、看護過程 2. 事例をもとにヘンダーソンの看護理論を実践的に活用する。
	事前・事後学習	事前学習：ヘンダーソン「看護の基本となるもの」を読んでおく。 事後学習：授業内容2について所定用紙②を完成させる。
6 (萩野)	学習の主題	主たる看護理論の分類と特徴(4)
	授業内容	1. オレムの提唱する看護の理論的特徴 理論家の背景、看護の目的・定義、看護と人間・健康・環境、看護過程 2. 事例をもとにオレムの看護理論を実践的に活用する。
	事前・事後学習	事後学習：授業内容2について所定用紙③を完成させる。
7 (木津)	学習の主題	主たる看護理論の分類と特徴(5)
	授業内容	1. オーランドの提唱する看護の理論的特徴 理論家の背景、看護の目的・定義、看護と人間・健康・環境 2. 実習での体験をもとに、オーランドの看護理論を実践的に活用する。
	事前・事後学習	事後学習：授業内容2について所定用紙④を完成させる。
8 (萩野)	学習の主題	看護実践において看護理論を活用する意義(まとめ)
	授業内容	1. 各看護理論の特徴の振り返り 2. 看護実践において看護理論を活用する意義
	事前・事後学習	所定用紙①の修正と②～④を完成させ、所定用紙①～④まですべてを提出する。

学習の主題・
授業内容

授業科目	看護基礎実習 II Clinical Practicum of Fundamental Nursing II	担当教員	小島 悦子、本吉 明美、園田 典子 柏倉 大作、横山 桂子、他
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	看護基礎実習 II の目的は、既習の知識・技術・態度を統合し、看護実践の基礎・基本となる能力を身につけることである。具体的には、病院に入院している対象者と信頼関係を築きながら、対象者に必要な支援を見だし、根拠に基づき、個性を考えながら実践する能力を身につける。また、チーム医療に必要な対人関係能力や倫理観を養い、自己内省する能力を身につけると共に、看護観を深めることである。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者と信頼関係を築きながら療養生活や健康状態を理解し、対象者に必要な支援について看護過程を活用して考えることができる。 2. 対象者の日常生活において必要な支援を明らかにし、実施し、評価できる。 3. 看護学生として倫理的行動をとることができる。 4. 実習体験をもとに看護観を表現し、今後の課題を明確にできる。 		
実習内容	実習内容の詳細は、実習要項を用いて実習オリエンテーション時に説明する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	100%	実習目標の到達度を評価基準に基づき評価し、60点以上を合格とする。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	実習オリエンテーションは必ず出席してください。 既修の看護技術、形態機能病態学について、計画的に復習をしましょう。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨地実習での学びをサポートします。		
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習オリエンテーション (学内) 2. 実習期間：2021年11月22日(月)～12月3日(金) 3. 実習時間：9:00～16:00 4. 実習初日は病院オリエンテーション、病棟オリエンテーションがある。 5. 対象者を受け持ち、関係を築きながら看護過程を展開する。 6. 実習指導者や担当教員の指導を受けながら、対象者に必要な支援を考え、実施し、評価する。 7. 毎日の看護実践を振り返り、実習記録を整理する。 8. 病棟実習最終日に学生カンファレンスを行い、学びを共有する。 9. 実習最終日にグループワークと学内報告会を行い、学びを共有する。 		
実習施設	北海道内科リウマチ科病院、KKR 札幌医療センター、札幌医科大学附属病院、札幌徳洲会病院、札幌東徳洲会病院、札幌南一条病院、札幌山の上病院、手稲溪仁会病院、斗南病院		

授業科目	成人看護活動論 I Adult Nursing I	担当教員	佐藤 郁恵、小野 善昭、加藤 剛寿、 伊藤 円
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	<p>1.慢性疾患によりセルフケアが必要となる対象の身体的、心理的、社会的反応を理解し、諸理論を活用しながら慢性疾患とともに生活していく対象を支えるための看護活動を理解する。</p> <p>2.健康状態の急激な変化によって生体がその変化に対応するために、さまざまな反応を起こしている急性期にある対象の身体的、心理的、社会的反応を理解し、諸理論を活用しながら生命の維持・回復に必要な看護活動を理解する。</p> <p>3.手術を受ける対象を周手術期の視点で包括的に理解し、侵襲を最小限にとどめ回復を促進する看護活動を理解する。</p>		
到達目標	<p>1-1. 慢性疾患をもつ対象の身体的、心理的、社会的反応を説明できる。</p> <p>1-2. 慢性疾患をもつ意味や対象が抱える問題と背景について概要を説明できる。</p> <p>1-3. 慢性疾患をとともに生活する対象のセルフケアを支える援助について説明できる。</p> <p>2-1. 急性期にある対象の身体的、心理的、社会的反応を説明できる。</p> <p>2-2. 急激な健康レベルの変化にある対象の生命の維持、回復の促進に必要な看護活動の考え方を説明できる。</p> <p>3-1. 術前・中・後を通じた対象の健康課題と看護の役割について説明できる。</p> <p>3-2. 手術侵襲が及ぼす生体反応について理解し、術後合併症予防のための援助について説明できる。</p>		
テキスト	<p>1. 鈴木久美、他編「成人看護学 慢性期看護 - 病気とともに生活する人を支える 第3版」(南江堂)</p> <p>2. 矢永勝彦、他編「系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論臨床外科看護総論 第11版」(医学書院)</p> <p>3. 北島政樹、他編「系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論臨床外科看護各論 第9版」(医学書院)</p> <p>4. 野崎真奈美、他編「看護学テキストN i C E 成人看護技術 - 成人看護学成人看護学 第2版」(南江堂)</p>		
参考書	<p>鈴木志津枝、他編「慢性期看護論 第3版」(ヌーヴェルヒロカワ)</p> <p>奥宮暁子編「生活調整を必要とする人の看護 I, II」(中央法規出版)</p> <p>梅田恵、他編「緩和ケア 改訂第2版」(南江堂)</p> <p>安酸史子「糖尿病のセルフマネジメント教育 第2版」(メディカ出版)</p> <p>道又元裕、他編「クリティカルケア看護学」(医学書院)</p> <p>池松裕子、他編「クリティカルケア看護論」(ヌーヴェルヒロカワ)</p> <p>雄西智恵美、他編「周手術期看護論 第3版」(ヌーヴェルヒロカワ)</p>		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	50%	到達目標に照らし、筆記試験と提出物で総合的に評価する。 担当者別の評価割合は初回講義で知らせる。また、提出物の評価基準はルーブリックなど課題ごとに提示する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	50%	
その他			
履修上の 留意事項	既習の知識を活用しつつ、疾患や健康レベルに応じた看護を具体的に考えていきます。成人期の対象の持つ多側面な健康上の課題について、事例を基に進めて行きます。そのため、基本的な人体の構造、病態、治療は理解しているものとして進めて行きますので各自で予習・復習を主体的に行い、看護実践のための知識を蓄えられるように学んでください。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを講義に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。		
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (佐藤)	学習の主題	慢性疾患をもつ対象の特徴と理解
		授業内容	<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 成人期にある対象が病いを得ることの意味</p> <p>3. 慢性疾患を抱えた対象の心理、社会的特徴</p> <p>4. 治療や検査がもたらす二次的な影響</p> <p>事例提示：がんを患った成人期にある患者</p>
事前・事後学習	事後学習：講義内容を整理する。		

回数 (担当)	項目	内容
2 (佐藤)	学習の主題	がんを患った人の看護
	授業内容	1. がんの集学的治療と成り行き 2. 化学療法を受ける患者のセルフケアを支える看護 3. 放射線療法を受ける患者のセルフケアを支える看護
	事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
3 (伊藤)	学習の主題	緩和ケアが必要な人への看護
	授業内容	1. 全人的苦痛 2. 慢性疾患と緩和ケア
	事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
4 (伊藤)	学習の主題	慢性的に呼吸機能に障害のある人の看護
	授業内容	1. 慢性閉塞性肺疾患と成り行き 2. 疾患が与える日常生活・社会生活への影響 3. 生活の再調整のために身につける知識・技術と教育的関わり
	事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
5 (加藤)	学習の主題	慢性的に循環機能に障害のある人の看護
	授業内容	1. 様々な疾患と心不全 2. 疾患が与える日常生活・社会生活への影響 3. 生活の再調整のために身につける知識・技術と教育的関わり
	事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
6 (加藤)	学習の主題	内分泌・代謝障害のある人の看護 1
	授業内容	1. 糖尿病と診断された人の心理的影響 2. 生活の再調整とライフサイクルに与える影響
	事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
7 (加藤)	学習の主題	内分泌・代謝障害のある人の看護 2
	授業内容	1. 生活の再調整のために身につける知識・技術と教育的関わり 2. シックデイ 3. 低血糖ならびに高血糖への対処
	事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
8 (小野)	学習の主題	手術療法と周術期看護の基本
	授業内容	1. 手術療法の変遷と今日の課題 2. 周手術期におけるチーム医療と看護師の役割 3. 手術を受ける患者の心理状態 4. 手術侵襲と生体反応
	事前・事後学習	事前学習：生体反応、炎症について予習する 事後学習：講義ノートの整理、事例の展開
9 (小野)	学習の主題	術前の看護
	授業内容	1. 意思決定への支援 2. 手術に向けた準備 3. 手術当日の看護 事例提示：胃切除術を受ける患者
	事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：講義ノートの整理、課題の提出

学習の主題・
授業内容

回数 (担当)	項目	内容
10 (小野)	学習の主題	術中の看護
	授業内容	1. 手術室の安全管理 2. 環境の管理 3. 安全な手術体位、ME 機器の取り扱い 4. 直接・間接介助の看護師の役割と連携 5. 麻酔法と麻酔時の看護 事例提示：肺切除術を受ける患者
	事前・事後学習	事前学習：事例の手術内容、麻酔方法、手術体位について予習する 事後学習：講義ノートのまとめ、事例の展開
11 (小野)	学習の主題	術後の看護 1
	授業内容	1. 術後合併症および看護 2. 術後の観察とアセスメント 3. 早期離床の意義とそれを促す援助 4. 合併症の予防、苦痛の緩和のための観察、アセスメントおよび看護 事例提示：大腸切除術を受ける患者
	事前・事後学習	事前学習：創傷管理、ドレナージ、術後合併症について予習する 事後学習：講義ノートの整理、事例の展開、課題提出
12 (小野)	学習の主題	術後の看護 2
	授業内容	1. 術後回復期から退院に向けた準備のための看護 2. 術後機能障害とセルフケア能力獲得のための援助 3. 手術による喪失体験 事例提示：人工肛門造設術を受ける患者
	事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：講義ノートの整理、課題の提出
13 (小野)	学習の主題	急性期における高齢者の看護
	授業内容	1. 高齢者の身体機能とリスクアセスメント 2. 治療に伴う合併症 3. 倫理的諸問題
	事前・事後学習	事前学習：高齢者の身体機能について予習する 事後学習：講義ノートの整理、事例の展開
14 (小野)	学習の主題	急性期にある対象の理解と看護活動 1
	授業内容	1. 急激な健康レベルの変化と急性期看護の考え方 2. 生命維持のための看護活動 3. 急激な健康レベルの変化にある対象のアセスメント 事例提示：せん妄となった患者
	事前・事後学習	事前学習：集中治療中の患者について予習する 事後学習：講義ノートの整理、事例の展開
15 (小野)	学習の主題	急性期にある対象の理解と看護活動 2
	授業内容	1. 回復のための看護活動 2. 二次障害の予防のための看護活動 3. 家族へのケア
	事前・事後学習	事前学習：集中治療中の患者の二次的障害について予習する 事後学習：講義ノートの整理、課題提出

学習の主題・
授業内容

授業科目	成人看護活動論Ⅱ Adult Nursing II	担当教員	小野 善昭、加藤 剛寿、伊藤 円、 大橋 和貴、佐藤 郁恵
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	1. 慢性疾患とともに生活する患者・家族を支えるために必要な援助技術を習得する。 2. 急性期ならびに周手術期にある患者・家族を看護するために必要な援助技術を習得する。 3. 救命処置（BLS）の知識・技術を習得する。 これらの内容は、臨地実習をはじめとする臨床での看護活動に実践できるよう修得することを目指す。		
到達目標	1-1 事例を通し、慢性疾患を抱える患者・家族のセルフマネジメントならびにセルフモニタリングについて考え、日常生活を支えるための看護技術を実施できる。 1-2 生活者の視点で考え、患者・家族のセルフケアを高める教育的関わりについて説明できる。 2-1 事例を通し、急性期にある患者の心身の回復を促進する援助技術を実施できる。 2-2 周手術期にある患者の一連の体験を理解し、術前・術中・術後の各期に応じた援助技術を根拠に基づいて考え、説明できる。 2-3 術後合併症予防のための術前からの介入、早期発見、回復の促進のための援助技術を考え、実施できる。 3-1 心肺停止時の緊急時対応の原則を理解し、効果的な BLS が実施できる。		
テキスト	1. 野崎真奈美他編「成人看護学 成人看護技術 改訂第2版」(南江堂) 2. 鈴木久美、他：「成人看護学 慢性期看護 第3版」(南江堂) 3. 矢永勝彦他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」(医学書院) 4. 北島政樹他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」(医学書院)		
参考書	1. 稲葉佳江他編「看護ヘルスアセスメント」(メヂカルフレンド社) 2. 雄西智恵他編「周手術期看護論」(ニューヴェルヒロカワ) 3. 下正宗編「エビデンスに基づく検査データ活用マニュアル 改訂第3版」(学研メディカル秀潤社) 4. 阿曾洋子編「基礎看護技術 第7版」(医学書院) 5. 深井喜代子編「基礎看護技術Ⅱ」(メヂカルフレンド社) 6. 日本糖尿病学会編「糖尿病治療の手びき」(南江堂) 7. 山内豊明「フィジカルアセスメントガイドブック」(医学書院)		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準 目標への到達状況を提出物、定期試験（筆記試験）により評価する。担当者別の評価割合は初回講義で知らせる。また、提出物の評価基準はルーブリックなど課題ごとに提示する。なお、定期試験を受験しなかった学生は評価の対象にしない。
	試験	80%	
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20%	
その他			
履修上の 留意事項	健康レベルに応じた援助技術を習得するため、慢性期・周手術期・急性期のオムニバスで授業は進められる。これまでの学習を活用し主体的に予習に臨むとともに、実践可能なレベルに到達するよう援助技術の習得に意欲的に取り組むこと。また特に、実習室使用日やクラス分けについては掲示板等で連絡するため見落としがないように各自で注意する。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを講義、演習に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。		
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (小野) (加藤)	学習の主題	糖尿病を持つ患者のセルフマネジメントを支える援助1
		授業内容	1. 講義ガイダンス 2. セルフモニタリング 3. 血糖自己測定 (SMBG) 4. インスリン自己注射 5. 演習ガイダンス
	事前・事後学習	事前学習：事例に基づき病態生理を復習する 事後学習：血糖自己測定の指導のパンフレットを作成する	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	2 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	糖尿病を持つ患者のセルフマネジメントを支える援助2 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	血糖自己測定 of 患者教育 (シミュレーション) ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する
		事前・事後学習	事前学習：演習に備えて予習する 事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する
	3 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	慢性閉塞性肺疾患を持つ患者の援助1 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	慢性閉塞性肺疾患を持つ患者の健康上の課題を捉えるヘルスアセスメント 1) 問診 2) 視診、触診 3) 聴診 (異常呼吸音の聴取) ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する
		事前・事後学習	事前学習：演習に備えて予習する 事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する
	4 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	慢性閉塞性肺疾患を持つ患者の援助2 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	1. 日常生活の中の困難 2. 呼吸器疾患とセルフマネジメント 3. 呼吸を整える援助 1) 呼吸練習 (口すばめ呼吸、腹式呼吸) 2) 呼吸困難に対する安楽な体位 3) 酸素吸入療法と酸素飽和度 4. 演習ガイダンス ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する
		事前・事後学習	事前学習：演習に備えて予習する 事後学習：演習の学びをふまえて、次回演習の準備をする
	5 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	慢性閉塞性肺疾患を持つ患者の援助3 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	慢性の呼吸器疾患を持つ事例患者への看護実践 (シミュレーション) ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する
		事前・事後学習	事前学習：演習に備えて予習する 事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する
	6 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	慢性疾患を抱えて生活する患者への教育的関わり1
		授業内容	1. 事例患者のセルフケアエージェンシーとセルフケアデマンドの明確化 2. 事例患者が生活を再調整する上での目標の明確化 3. 目標を達成するための指導案の作成 ※グループワーク
		事前・事後学習	事前学習：主題に沿って予習する。 事後学習：グループで資料を作成し、発表に向けて練習する。
	7 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	慢性疾患を抱えて生活する患者への教育的関わり2
		授業内容	事例患者に対する指導案の発表 1) 指導案に基づいたロールプレイ 2) ディスカッション ※ロールプレイは 3 教室に分かれて行う
		事前・事後学習	事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する。
	8 (小野)	学習の主題	周手術期にある患者への援助技術2
		授業内容	全身麻酔で手術を受ける事例患者のアセスメントの共有と修正 ※グループワーク
		事前・事後学習	事後学習：グループ内で発表・共有した内容を指定用紙にまとめ、提出する
9 (小野)	学習の主題	周手術期にある患者への援助技術2	
	授業内容	全身麻酔で手術を受ける事例患者のアセスメントの共有と修正 ※グループワーク	
	事前・事後学習	事後学習：グループ内で発表・共有した内容を指定用紙にまとめ、提出する	

回数 (担当)	項目	内容
10 (小野)	学習の主題	周手術期にある患者への援助技術 3
	授業内容	1. 呼吸器合併症（無気肺・肺炎）、深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症、消化器系合併症（術後腸閉塞）、手術部位感染（SSI）、等の看護計画の立案 2. 発表資料（指定用紙）の作成 ※グループワーク
	事前・事後学習	事前学習：提示された課題について各自学習し、指定の用紙に整理する 事後学習：グループで資料を作成し、発表に向けて練習する
11 (小野) (全担当教員)	学習の主題	周手術期にある患者への援助技術 4
	授業内容	事例患者の手術後合併症に関する看護計画の発表 1) 手術後合併症の要因 2) 術前・術後の看護 3) ディスカッション ※グループ発表は 2 クラスに分けて同時に行う ※ 11 回目、12 回目の演習は「2 コマ連続」で行う
	事前・事後学習	事前学習：各グループの発表資料を読み、学びを整理する
12 (小野) (全担当教員)	学習の主題	周手術期にある患者への援助技術 5、6
	授業内容	1. 事例患者の手術後合併症に関する看護計画の発表 1) 手術後合併症の要因 2) 術前・術後の看護 3) ディスカッション ※グループ発表は 2 クラスに分けて同時に行う 2. 手術直後の看護 1) 手術直後の患者の状態と必要な看護（観察の要点など） 2) 演習ガイダンス ※ 11 回目、12 回目の演習は「2 コマ連続」で行う
	事前・事後学習	事後学習：演習に備えて予習する
13 (大橋) (全担当教員)	学習の主題	周手術期にある患者の援助技術 7 【基礎・成人看護実習室】
	授業内容	手術直後の患者の観察 1) 手術直後の患者のバイタルサインの測定 2) 創傷部位・ドレナージ等、全身状態の観察 3) 測定・観察した内容の記録 ※13 回目と 14 回目の演習は「2 コマ連続」で、半数ずつ 2 日に渡って実施する
	事前・事後学習	事前学習：呼吸・循環に関するフィジカルアセスメントの復習、演習に備えて予習する
14 (大橋) (全担当教員)	学習の主題	周手術期にある患者の援助技術 8 【基礎・成人看護実習室】
	授業内容	1. 輸液管理（点滴内容の確認ならびに滴下数の計算と設定） 2. DVT 予防（弾性ストッキング、間欠的空気圧迫法） 3. 創傷管理（創傷処置ならびにドレーン挿入部の処置） ※13 回目と 14 回目の演習は「2 コマ連続」で、半数ずつ 2 日にわたって実施する
	事前・事後学習	事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する。
15 (大橋) (全担当教員)	学習の主題	一次救命処置（BLS）の実際 【基礎・成人看護実習室】
	授業内容	1. AED を用いた一次救命処置 2. 人工呼吸とバックバルブマスクを用いた換気方法 ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する
	事前・事後学習	事前学習：演習に備えて予習する。 事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する。

学習の主題・
授業内容

授業科目	高齢者看護学概論 Introduction to Gerontological Nursing	担当教員	萩野 悦子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	高齢者看護学の導入であり、今後の高齢者看護学の科目すべての基盤となる思考を育成する科目である。老年期にある対象の発達課題および加齢現象に伴う特徴や、疾患および老年症候群について理解し、高齢者とその家族に看護を提供するために必要な基礎的知識を修得する。また、高齢者を取り巻く現代社会と保健医療福祉の動向を通して、社会保障制度の現状と課題についての基礎的知識を修得する。さらに、高齢者看護の目的・役割について理解し、高齢者看護における倫理的課題について思考する能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の身体的、心理・社会的な特徴について説明できる。 2. 高齢者を取り巻く保健の動向や高齢者に関わる医療政策について説明できる。 3. 高齢者に多い疾患や老年症候群の概要と看護について説明できる。 4. 高齢者を介護する家族の問題や支援の在り方について説明できる。 5. 高齢者看護における倫理的問題について説明できる。 6. 学修者自身の高齢者観を言語化し、老年期について洞察できる。 		
テキスト	北川公子編「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」(医学書院)		
参考書	授業の際、使用した文献は適時提示・紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	90%	目標の到達状況を筆記試験 90%、レポート 10%、合計 100%にて評価する。
	レポート	10%	
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	予習・復習を行い、高齢者看護活動論Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護実習につながるようノートを作成するなど工夫しながら学修を進めること。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護における事例などを織り交ぜながら、高齢者看護について理解しやすいよう授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス 高齢者看護学の成り立ち、高齢者とは、高齢者看護とは
		授業内容	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項と評価方法・基準、テキスト等の説明 ・高齢者のイメージ、高齢者の特徴を理解する ・高齢者看護の定義や目標について理解する
		事前・事後学習	事前学習：事前にシラバスを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	2	学習の主題	老年期の理解：加齢による変化と健康
		授業内容	・加齢による身体的変化と健康について理解する ・加齢による心理・精神的变化、社会的変化、発達課題について理解する ・喪失体験と適応について理解する
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	3	学習の主題	高齢者に多い疾患と老年症候群、フレイル
		授業内容	・高齢者に多い疾患の概要を理解する ・老年症候群、フレイルと看護について理解する
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	4	学習の主題	高齢者をとりまく社会保障制度 1
		授業内容	・高齢社会の現況と社会保障制度、医療制度について理解する ・認知症をもつ高齢者に対する施策について理解する
事前・事後学習		事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5	学習の主題	高齢者をとりまく社会保障制度 2
		授業内容	・地域包括ケアシステムについて説明できる ・介護保険制度について説明できる
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	6	学習の主題	高齢者を介護する家族への支援、高齢者看護の倫理的課題
		授業内容	・高齢者を介護する家族への支援について理解する ・高齢者看護における倫理的課題について理解する
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	7	学習の主題	高齢者看護における理論・概念
		授業内容	・サクセスフルエイジング、ストレングスモデル、エンパワメント、コンフォート理論、について理解する
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	8	学習の主題	高齢者におけるライフストーリーの意義 高齢者とのコミュニケーションの基礎的技術
		授業内容	・ライフストーリーの意義について理解する ・加齢変化に配慮した高齢者とのコミュニケーションについて理解する
事前・事後学習		事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する 課題：高齢者に対するインタビュー記事を読み、その人のライフストーリーを聴き取る意義ならびに高齢者の社会活動の意義について考察する	

授業科目	高齢者看護活動論Ⅰ Gerontological Nursing Ⅰ	担当教員	中田 真依・萩野 悦子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	本科目では、老年期にある対象への個別性に応じた看護実践ができるよう、高齢者看護の基礎的知識・技術・態度を修得し、感性を涵養することを目的とする。高齢者に特有な加齢に伴う諸機能の病態生理学的変化、高齢者に多い疾病や症状を理解し、多様な健康状態および治療経過にある高齢者への基本的看護について生活機能の視点から学修する。また、高齢者および高齢者を支える家族への看護の在り方について倫理的観点をふまえて学修する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う諸機能の変化や高齢者に多い疾患・症状を理解し、必要な看護について説明できる。 2. 高齢者の多様な健康状態および治療経過を理解し、必要な看護について説明できる。 3. 高齢者の生活機能におけるアセスメントの視点を理解し、必要な看護について説明できる。 4. 加齢に伴う諸機能の変化や援助を要する高齢者を体験し、看護の在り方について考察できる。 5. 高齢者への生活援助技術（排泄）を理解し、安全・安楽に実施できる。 6. 高齢者への倫理的配慮を理解し、高齢者や高齢者を支える家族を含めた看護の在り方について説明できる。 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 北川公子編「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」(医学書院) 2. 山田律子編「生活機能からみた老年看護過程」(医学書院) 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正木治恵・真田弘美編「老年看護学概論」(南江堂) 2. 佐々木英忠編「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」(医学書院) 3. 泉キヨ子編「根拠がわかる 老年看護技術」(メヂカルフレンド社) 4. 大川弥生著「生活機能とは何か -ICF：国際生活機能分類の理解と活用 -」(東京大学出版会) 5. 水谷信子監修「最新老年看護学 第3版」(日本看護協会出版会) その他、講義内に提示する。 		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	80%	目標の到達状況を、筆記試験 80%、レポート 10%、および提出物 10%の合計 100%によって評価する。
	レポート	10%	
	小テスト		
	提出物	10%	
その他			
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習・復習を行い、3年次の高齢者看護活動論Ⅱ、高齢者看護実習につながるようノートを作成すること。また、定期的に講義内容に関連する国試過去問ミニテストを実施する。 2. 演習は 2～3クラスに分かれて実施する。事前に配布する演習要項や関連する講義資料にもとづき予習し、必要な準備をして臨むこと。 		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護における事例などを織り交ぜながら、高齢者看護について理解しやすいよう授業・演習を行います。		
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (中田)	学習の主題	ガイダンス 多様な健康状態・治療経過にある高齢者の看護 [1] 入院・検査・薬物療法
		授業内容	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項と評価方法・基準、テキスト等を説明する 高齢者の入院環境や様々な治療による影響と看護について理解する ・高齢者の入院環境や検査による影響と看護 ・薬物療法を受ける高齢者の看護 ・【演習①】のガイダンス
		事前・事後学習	事前学習：高齢者看護学概論の講義内容を復習して臨む 事後学習：演習要項を熟読し、演習に備えて準備する 【課題提示①】脳卒中のノート作成
	2 (全担当教員)	学習の主題	加齢に伴う諸機能の変化と看護 [1] 高齢者疑似体験 【演習①】
		授業内容	演習要項に沿って高齢者疑似体験演習を行う：グループに分かれて演習をする ・加齢変化が生じている高齢者の疑似体験演習における実施・評価
事前・事後学習		事前学習：演習要項を熟読し、演習に備えて準備する 事後学習：【課題提示②】演習終了後のレポート	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 (中田)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護 [1] 運動器疾患 加齢に伴う諸機能の変化と看護 [2] 高齢者の活動①
		授業内容	高齢者に多い疾患と看護について、原因や生活機能への影響について理解する ・加齢に伴う運動機能の変化と高齢者の転倒予防 ・高齢者に多い骨折と看護
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	4 (萩野)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護 [2] 脳血管・脳神経疾患①
		授業内容	高齢者に多い疾患と看護について、原因や生活機能への影響について理解する ・パーキンソン病の病態・症状と看護
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	5 (萩野)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護 [3] 脳血管・脳神経疾患② 多様な健康状態・治療経過にある高齢者の看護 [2] リハビリテーション
		授業内容	高齢者に多い疾患と看護について、原因や生活機能への影響について理解する ・脳卒中の病態・症状（高次脳機能障害、構音障害他）と看護 ・高齢者のリハビリテーション看護と IPW
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	6 (中田)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護 [4] 誤嚥性肺炎 加齢に伴う諸機能の変化と看護 [3] 高齢者の食事①
		授業内容	高齢者に多い疾患と看護について、原因や生活機能への影響について理解する ・加齢に伴う摂食嚥下機能の変化と誤嚥性肺炎の予防（口腔ケア他） ・高齢者の食事援助（経口、胃瘻）
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習し、演習の準備をする
	7 (中田)	学習の主題	加齢に伴う諸機能の変化と看護 [4] 高齢者の食事②、排泄①
		授業内容	高齢者の栄養アセスメント、褥瘡、脱水予防について理解する ・高齢者の栄養アセスメント ・褥瘡アセスメントと予防 ・水分出納バランスのアセスメントと脱水の予防
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習し、演習の準備をする
	8 (中田)	学習の主題	加齢に伴う諸機能の変化と看護 [5] 高齢者の排泄②
		授業内容	高齢者に多い排泄障害（失禁・便秘など）、排泄アセスメントと看護について理解する ・高齢者に多い排泄障害とコンチネンスケア ・排泄パターンの把握とアセスメント ・【演習②】のガイダンス
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習し、演習の準備をする
	9 (全担当教員)	学習の主題	加齢に伴う諸機能の変化と看護 [6] 高齢者の排泄③【演習②】
		授業内容	演習要項に沿って排泄援助演習を行う：グループに分かれて演習する ・身体可動性障害のある高齢者の排泄援助（オムツ交換）演習における実施・評価
		事前・事後学習	事前学習：演習要項を熟読し、演習に備えて準備する 事後学習：【課題提示③】演習終了後のレポート他

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	10 (中田)	学習の主題	加齢に伴う諸機能の変化と看護 [7] 高齢者の活動②、清潔・更衣・整容
		授業内容	高齢者の皮膚の特徴と清潔・更衣・整容に関する看護、高齢者のADLと評価指標について理解する ・加齢に伴う皮膚の変化と清潔・更衣・整容に関する看護 ・高齢者のADLと評価指標
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：【課題提示④】認知症のノート作成
	11 (萩野)	学習の主題	加齢に伴う諸機能の変化と看護 [8] 高齢者の休息、活動③
		授業内容	高齢者の睡眠障害と生活リズムを整える看護について理解する ・加齢に伴う睡眠の変化と睡眠障害の予防・改善に関する看護 ・高齢者の生活リズムを整える看護
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	12 (萩野)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護 [5] 認知症①
		授業内容	認知症の病態と種類、症状など基礎的知識について理解する ・認知症の病態と種類（アルツハイマー型、血管性、レビー小体型、他） ・認知症の症状（中核症状・BPSD） ・認知症看護の基本、評価指標
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後課題：講義内容を復習する
	13 (中田)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護 [6] 認知症② (GS：認知症看護認定看護師)
		授業内容	認知症高齢者への看護の実際について理解する ・認知症高齢者とのコミュニケーション ・認知症高齢者への看護実践
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	14 (中田)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護 [7] 高齢者のうつ、せん妄
		授業内容	高齢者のうつ、せん妄の原因・症状、看護について理解する ・高齢者のうつの原因・特徴と看護、高齢者の自殺 ・高齢者のせん妄の原因・特徴、予防と看護
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
15 (中田)	学習の主題	多様な健康状態・治療経過にある高齢者の看護 [3] 終末期 講義のまとめ	
	授業内容	高齢者の終末期看護について理解する ・高齢者の終末期とエンドオブライフ・ケア ・終末期における倫理（尊厳の保持、事前指示、リビングウィル） 高齢者看護活動論Ⅰのまとめ	
	事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習し、高齢者看護活動論Ⅱに向けて準備する 春休み課題：実習・国試に向けた準備（後日提示）	

授業科目	小児看護学概論 Introduction to Pediatric Nursing	担当教員	河崎 和子、香川 敦子、松木 由理
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	本科目では、家族・社会のなかで生活する小児の成長・発達、発達課題、生育環境、権利擁護を概観し、健全な成長・発達と基本的な生活習慣、健康増進のための看護における小児看護の役割を理解する。また、小児の健康諸課題を解決するために、小児とその家族との人間関係成立・発展の方法、成長・発達過程を促進する方法、生活過程を支援する方法について理解する。さらに小児を取り巻く保健医療福祉メンバーや教育関係者、教育機関や福祉関係機関等との連携・協働のあり方について理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児保健医療の歴史の変遷と小児看護の理念および役割を理解する。 2. 小児看護を支える法的根拠および小児医療における子どもの権利について理解する。 3. 成長・発達の概念と発達課題および小児各期の発達の特徴とその評価方法を理解する。 4. 現代社会における子どもと家族の健康問題について環境との相互作用から理解する。 5. 子どもと家族の健康の維持・増進に向けた支援方法を理解する。 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小林京子他編「新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論／小児保健」(メヂカルフレンド社) 2. 小林京子他編「新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護」(メヂカルフレンド社) 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 岡田洋子他「小児看護学1 小児と家族の系統的アプローチ 第2版」(医歯薬出版) 2. 舟島なをみ「看護のための人間発達学 第4版」(医学書院) 3. 服部祥子「生涯人間発達論」(医学書院) 4. 中野光編「子どもの権利条約」(岩波ジュニア新書) 5. 日本子ども家庭総合研究所「日本子ども資料年鑑」(KTC中央出版) 		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	80%	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60点以上を合格とする。 ① 提出物：学習シート 第2・3・4・6・7回の講義時の課題を次の講義時に提出する。各4点(20点) ② 定期試験(80点)：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20%	
その他			
履修上の留意事項	変化する現代社会に生きる子どもと家族の問題に関心をもち広い視野から考え積極的な姿勢で学びを深めてください。小児看護活動論Ⅰにつながる科目です。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を組み込み、理解しやすい授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1 (河崎)	学習の主題	小児保健医療の歴史の変遷と小児看護の役割
		授業内容	【ガイダンス】 本科目の学習目的・目標および学習内容と方法・評価方法と基準、履修上の留意事項、テキストと参考書について説明する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象と目的・役割について理解する。 2. 我が国における小児医療および小児看護の歴史について理解する。 3. 小児看護・医療における諸統計を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：小児とはどのような存在かを考え、自分なりの小児看護師の役割について考えてくる。 自らの考える小児看護師の役割について学習シートに記載し、講義終了時提出する。
	2 (河崎)	学習の主題	小児看護における概念と理論
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自我・認知と思考の発達に関する概念と理論について理解する。 2. 母子関係に関する概念と理論について理解する。 3. 発達と学習に関する概念と理論について理解する。 4. 家族発達理論について理解する。 5. プレパレーションについて理解する。
事前・事後学習		事前学習：テキスト p118～144 を読んでくる。 小児看護における理論の特徴から学び得たことを学習シートにまとめる。 講義終了時に提出する。	

回数 (担当)	項目	内容
3 (河崎)	学習の主題	小児看護・医療の法と倫理
	授業内容	1. 小児看護・医療における法律について理解する。 2. 子どもの権利条約について理解する。 3. 医療における子どもの権利について理解する。 4. 小児看護における倫理的配慮について理解する。
	事前・事後学習	事前学習：子どもが病院を受診した際、子どもの権利が脅かされやすい場面について考えてくる。 講義後、事前に挙げた場面の際に、看護師としてどう対応すべきか自分の考えを学習シートにまとめる。講義時に提出する。
4 (河崎)	学習の主題	小児保健
	授業内容	1. 母子保健と子育て支援を理解する 2. 学校保健の施策を理解する
	事前・事後学習	事前学習：テキストの p58～71 を読んでくる。
5 (河崎)	学習の主題	予防接種
	授業内容	1. 予防接種の意義について理解する。 2. 定期予防接種について理解する。
	事前・事後学習	事前学習：自分の母子手帳にある予防接種を確認してくる。 講義の際に、母子手帳を持参する。 講義終了時、学習シートを提出する。 事後学習：主要な予防接種と接種時期について復習する。
6 (河崎)	学習の主題	難病・障害児保健福祉
	授業内容	1. 難病や障害をもつ小児への保健・福祉について理解する。 2. 療育・児童発達支援・特別支援教育について理解する。
	事前・事後学習	事前学習：テキスト p 74～79 を読んでくる。 事後学習：障害を持つ小児への対応について自己の考えや学び得たことを学習シートに記載する。第7回講義時に提出する。
7 (河崎)	学習の主題	小児の特徴と成長・発達
	授業内容	成長・発達の概念と一般的原則および成長・発達に影響を与える要因について理解する。 1. 成長・発達の概念 2. 成長発達の一般的原則 3. 成長発達に影響を与える要因
	事前・事後学習	事前学習：『小児の成長・発達』について、各自ノートの作成を開始する。
8 (河崎)	学習の主題	成長・発達の評価①
	授業内容	1. 指数法を用いた評価指標（カウプ指数・ローレル指数・肥満度）を理解する。 2. 反射について理解する。 3. 運動の発達（粗大運動と微細運動）を理解する。 4. DENVER の評価指標（付表 271 参照）
	事前・事後学習	事後学習：各自の『小児の成長・発達』ノートに成長発達の評価方法について整理し、自分なりにまとめて、理解を深める。
9 (河崎)	学習の主題	小児各期の特徴と成長（乳児期）①
	授業内容	乳児の成長・発達とその特徴を以下の点から理解する。 1. 乳児の身体的特徴（形態的・機能的側面） 2. 乳児の発達課題と愛着形成（心理・社会的特徴および情緒的発達） 3. 乳児期のケア
	事前・事後学習	事前学習・事後学習：乳児の成長・発達とその特徴とケアについて各自『小児の成長・発達』ノートに整理する。

学習の主題・
授業内容

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	10 (河崎)	学習の主題	小児各期の特徴と成長（幼児期）②
		授業内容	<p>幼児の成長・発達とその特徴を以下の視点から理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の身体的特徴（形態的・機能的側面） 2. 幼児の発達課題と社会化のプロセス（心理・社会的特徴と認知・思考の発達） 3. 子どもにとっての遊びの意義 4. 幼児期の成長・発達に応じたケア
		事前・事後学習	事前・事後学習：幼児の成長・発達の特徴とケアについて各自『小児の成長・発達』ノートに整理する。
	11 (河崎)	学習の主題	小児各期の特徴と成長（学童期）③
		授業内容	<p>学童期の成長・発達とその特徴を以下の視点から理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学童期の身体的特徴（形態的・機能的側面） 2. 学童期の発達課題とケア
		事前・事後学習	事前・事後学習：学童期の成長・発達の特徴とケアについて各自『小児の成長・発達』ノートに整理する。
	12 (河崎)	学習の主題	小児各期の特徴と成長（思春期）④
		授業内容	<p>思春期の成長・発達とその特徴を以下の視点から理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 思春期の身体的特徴（形態的・機能的側面、第二性徴） 2. 思春期の発達課題と健康課題とケア
		事前・事後学習	事前・事後学習：思春期の成長・発達の特徴とケアについて各自『小児の成長・発達』ノートに整理する。
	13 (香川)	学習の主題	小児医療の場と看護の特徴 その①
		授業内容	<p>小児医療の場と看護の特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉・教育の場とネットワーク ・小児科外来の看護の特徴と役割 ・小児病棟の特徴と看護
		事前・事後学習	講義時に提示します。
	14 (松木)	学習の主題	小児医療の場と看護の特徴 その②
		授業内容	<p>小児の在宅看護の役割と機能を以下の視点から理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅ケア移行の条件 ・在宅ケアによる家族への影響 ・小児の在宅ケアの看護 ・重症心身障害児をもつ小児と家族の現状と看護
		事前・事後学習	講義時に提示します。
	15 (河崎)	学習の主題	小児の事故防止と安全教育/ 小児看護概論のまとめ
		授業内容	<p>・小児の事故の特徴・要因を知り、事故防止と安全教育について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の死亡原因・小児発達段階と事故要因 2. 事故防止と安全教育
		事前・事後学習	<p>講義時に自己の『小児の成長・発達』ノートを持参してください。</p> <p>事後学習：今までの講義内容を復習し、『小児の成長・発達』ノートが実践で活用できるように整理する。</p>

授業科目	小児看護活動論 I Pediatric Nursing I	担当教員	河崎 和子、佐々木 めぐみ
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	本科目では、小児の主要な健康障害について理解し、その診断・治療過程にある小児への援助方法について学習する。また、健康障害をもつ小児を抱える家族との関係形成の方法や援助方法についても学習する。ロールプレイおよびモデル人形や医療機器を用いた模擬演習により援助技術を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康問題や健康障害および入院が、小児とその家族に及ぼす影響について理解する。 2. 様々な健康レベルにある小児とその家族への支援方法について理解する。 3. 小児の看護技術の特徴を理解し基本的な看護技術が実施できる。 4. 事例を通して、対象である小児とその家族の健康状態をアセスメントし、援助の必要性の高い看護問題について看護計画が立案できる。 5. 事例を通して、立案した看護計画を実践するための看護技術を実施できる。 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小林京子他編「新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論／小児保健」(メヂカルフレンド社) 2. 小林京子他編「新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護」(メヂカルフレンド社) 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 岡田洋子他「小児看護学2 小児の主要症状とケア技術」(医歯薬出版) 2. 荃津智子編「発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程」(医歯薬出版) 3. 白木和夫「ナースとコメディカルのための小児医学」(日本小児医事出版) 4. 山元恵子監修「写真でわかる小児看護技術 改訂第2版」(インターメディカ) 5. 小野田千枝子監修「こどものフィジカルアセスメント」(金原出版) 6. 石黒彩子編「発達段階からみた小児看護過程」(医学書院) 7. 添田啓子他「看護実践のための根拠がわかる小児看護技術」(メヂカルフレンド社) 		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	50%	目標の到達状況を下記の視点から総合的に評価し、60点以上を合格とする。 ① レポート：看護過程演習に関する提出物(30点)： ・事例の小児の健康状態に関する情報の整理、アセスメント、優先度の高い看護問題の明確化、優先度の高い看護問題に対する看護計画立案を指定の用紙に記載し提出する。 ② 定期試験(50点)：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 ③提出物：小児のプレパレーション発表資料(グループ)(10点)および各講義終了後の指定時の個人学習シートを提出する。(10点：各2点全5回分)
	レポート	30%	
	小テスト		
	提出物	20%	
その他			
履修上の留意事項	演習は、実際場面を想定して行います。オリエンテーション内容を理解し、事前・事後学習をしっかりと行い演習に臨みましょう。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を組み込み、理解しやすい授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1 (河崎)	学習の主題	小児看護の実践に向けての考え方
		授業内容	【ガイダンス】 本科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項、テキスト類の活用方法の説明 小児看護の実践に向けての考え方を理解する。 ・小児看護の視点 ・小児看護における看護過程(問題解決方法) ・小児看護技術の特徴
事前・事後学習	事前学習：概論で学習した小児各期の成長・発達の特徴を復習し、講義に臨む。		

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	2 (河崎)	学習の主題	小児とのコミュニケーション技術と遊びの援助技術（講義とワーク）
		授業内容	小児とのコミュニケーション技術と遊びの援助技術について理解し、援助技術を習得する。 ① 発達段階別の小児の特徴理解とコミュニケーション技術 ② 病院における小児とのコミュニケーション技術 ③ 遊びの援助技術 ・紙上ショート事例を用いて対応方法を検討する。検討した内容をもとに、となりと模擬実践し、子どもの特徴を踏まえての対応方法を振り返る。
		事前・事後学習	事後学習：検討した内容や一部模擬実践した内容を振り返り、学びと課題について各自学習シート①にまとめ、提出する。
	3 (河崎)	学習の主題	小児の状態把握のための看護技術①（講義）
		授業内容	小児の健康状態の観察に必要な5つの基本技術を理解する。 小児の「痛み」のアセスメントに必要な技術を理解する。 ・問診、視診、触診、打診、聴診 ・痛みのスケール（自己申告スケール、FLACCスケール） ・全身の観察
		事前・事後学習	事後学習：講義内容を復習する。
	4 (全担当教員)	学習の主題	小児の状態把握のための看護技術②（講義）
		授業内容	・バイタルサイン測定の意義と小児のバイタルサインの特徴と測定時の注意点について理解する。 ・小児バイタルサインの特徴と測定時の注意点 ① 体温、②脈拍・心拍、③呼吸、④血圧 ・測定に関する看護技術の実際
		事前・事後学習	事後学習：講義終了後、学習シート②に学習内容をまとめ復習する。
	5 (全担当教員)	学習の主題	小児の状態把握のための看護技術③（演習） ※5・6の内容を半数ずつ2クラス4グループ展開（5・6回目連続）
		授業内容	バイタルサインの測定に関する技術を習得する。 第4回に学習した内容についてロールプレイおよび模擬人形などを用いてバイタルサイン測定技術を実践する。
		事前・事後学習	事前学習：講義内容を復習して講義に臨む。 事後学習：講義終了後学習シート③に演習の振り返りを記載し、提出する。
	6 (全担当教員)	学習の主題	入院している小児の排泄行動自立への援助 ※半数ずつ2クラス展開
		授業内容	入院している小児の排泄行動自立への援助技術を学修する。 ・排泄行動自立への援助（トイレトレーニング） ・ショート事例を用いて検討する（グループワーク）。
		事前・事後学習	事後学習：講義終了後、グループワークでまとめたものを提出する。
	7 (全担当教員)	学習の主題	検査・処置・治療に伴う看護技術（講義・演習）
		授業内容	検査・処置・治療に伴う看護技術について理解する。 ① 採血、②採尿（採尿バッグを用いる方法） ② 浣腸、④与薬、⑤吸入、⑥罨法、⑦吸引、⑧輸液 ※半数ずつ2クラス4グループ展開（7・8回目連続）
		事前・事後学習	事前学習：視聴覚教材等により看護技術の目的、方法、留意点を確認しておく。事後学習：講義内容を復習する。
	8 (全担当教員)	学習の主題	小児の救急蘇生法
		授業内容	小児の心肺蘇生法を理解する。 ① 小児の緊急時の評価方法 ② 小児1次救命処置、 ③ 小児2次救命処置 ④ 小児・乳児の胸骨圧迫 ⑤ バッグバルブマスク（BVM）による人工呼吸 ※半数ずつ2クラス4グループ展開（7・8回目連続）
		事前・事後学習	事前学習：視聴覚教材等により看護技術の目的、方法、留意点を確認しておく。事後学習：講義内容を復習する。

回数 (担当)	項目	内容
9 (全担当教員)	学習の主題	小児のプレパレーション①（講義後、グループワークでの検討）
	授業内容	プレパレーションの目的・意義と方法について理解する。 ・プレパレーションの目的・意義、方法 ショート事例を用いてプレパレーションについて検討する。
	事前・事後学習	事前学習：プレパレーションについて各自予習してくる。 ※講義終了時、事例検討した内容をグループごと提出する。
10 (全担当教員)	学習の主題	小児のプレパレーション②（発表・意見交換）
	授業内容	第9回時に考えた事例のプレパレーションについて、発表する。 各グループ発表後、意見交換する。
	事前・事後学習	事前学習：発表資料はグループごとに必要部数印刷準備しておく。時間にな ったら速やかに発表できるように発表者を決め準備する。 事後学習：講義終了後、意見交換などから自己の考えた内容を振り返り学習 シート④に記載し、指定期日までに提出する。
11 (全担当教員)	学習の主題	呼吸器系疾患を持つ小児と家族への援助①（個人ワーク）
	授業内容	・小児のアセスメントの視点と看護過程（復習）（※11・12回連続） ・演習方法についてオリエンテーションする。 ・気管支喘息の幼児の事例について、以下の視点から看護計画を立案し、一 連の看護過程を理解する。 ・情報整理・分析 ・問題の明確化 ・看護計画立案 ・評価の視点
	事前・事後学習	事前学習：気管支喘息について学習し、整理しておく。
12 (全担当教員)	学習の主題	呼吸器系疾患を持つ小児と家族への援助②（ワーク）（※11・12回連続）
	授業内容	気管支喘息の幼児の事例について、以下の視点から看護計画を立案し、一連 の看護過程を理解する。 ・情報整理・分析 ・問題の明確化 ・看護計画立案 ・評価の視点
	事前・事後学習	事後学習：事例に関する一連の看護過程について、指定の用紙に整理する。 講義で指定した期日に提出する（期日厳守）遅れた場合は評価対象外となり ます。
13 (全担当教員)	学習の主題	呼吸器系疾患を持つ小児と家族への援助③（個人ワーク）
	授業内容	気管支喘息に必要な援助内容を整理、学修する。 ・バイタルサインの測定 ・吸入と吸引療法 ・与薬（経口薬、座薬） ・小児のクーリング法
	事前・事後学習	事前学習：視聴覚教材等により看護技術の目的、方法、留意点を確認してお く。事後学習：事例に対する看護として立案した看護計画との関連を整理す る。講義で指定した期日に提出する（期日厳守）遅れた場合は評価対象外と なります。
14 (全担当教員)	学習の主題	慢性疾患をもつ小児と家族への看護
	授業内容	慢性疾患をもつ小児と家族への看護について理解する。 ・小児看護におけるヘルスプロモーション ・セルフケア支援と患児教育 ・移行期の患者と支援
	事前・事後学習	事後学習：講義終了後、学習シート⑤に学び得たことについて記載し、提出 する。提出期日は講義時に指定する。
15 (全担当教員)	学習の主題	ターミナル期の小児とその家族への看護
	授業内容	ターミナル期にある小児と家族への看護について理解する。 ・小児の死の概念発達 ・QOLと苦痛の緩和 ・インフォームドコンセントと告知
	事前・事後学習	事後学習：講義内容を復習する。

授業科目	母性看護学概論 Introduction to Maternal Nursing	担当教員	齋藤 早香枝
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	母性看護の対象の特性および女性のライフサイクル各期における特徴、健康問題について理解する。また、女性の生涯を通じた健康の保持・増進のためのリプロダクティブヘルスケアの観点およびケアを理解する。さらに、母性看護の変遷、統計、制度などから、母子保健の状況と課題を理解し、母性看護の課題や役割を考える。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の概念、対象の特性について理解する。 2. 母性看護の対象の身体的、心理・社会的特性について理解する。 3. 人間の性と生殖について理解する。 4. 女性のライフサイクル各期における対象の特徴と課題について理解する。 5. 母性看護の歴史の変遷や母性看護の現況について理解する。 6. 母性看護に関する法律および母子保健施策について理解する。 7. 母性意識の発達、母親役割過程、家族関係、子育てについて理解する。 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 母性看護学概論」(医学書院) 2. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 母性看護学各論」(医学書院) 		
参考書			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	90%	到達目標の達成度を定期試験 90%、レポート 10%で評価します。 詳細はガイダンスで示します
	レポート	10%	
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	積極的な授業への関与を期待します。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を講義に組み込み、理解しやすい授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	母性看護に関連する概念と理論
		授業内容	母性とは何かを幅広く考え、母性看護学における母性のとらえ方について理解を深める。 ・親になることと母性 ・母性をめぐる定義
		事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
	2	学習の主題	母性看護に関連する概念と理論
		授業内容	1) 母性看護の理念について理解する 2) リプロダクティブヘルス / ライツの概念を理解する。
		事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
	3	学習の主題	セクシュアリティの特徴、発達
		授業内容	セクシュアリティの定義・発達・課題について考えることができる。 ・セクシュアリティとは ・ライフステージにおけるセクシュアリティの特徴、発達課題
		事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
	4	学習の主題	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化
		授業内容	女性のライフサイクルにおける形態の変化・機能の発達を理解する。 ・生殖器の形態・機能 ・性周期におけるホルモンと生殖機能の変化
		事前・事後学習	事後学習：性周期におけるホルモンについて復習する
	5	学習の主題	母性看護における倫理
		授業内容	母性看護における倫理的問題について考えることができる。 ・生殖補助医療・遺伝子診断の発展に伴う倫理的問題 ・女性の権利と胎児の権利
事前・事後学習		事後学習：授業の復習をする	

回数 (担当)	項目	内容
6	学習の主題	母性看護の歴史の変遷と近年の動向 母子保健統計
	授業内容	母性看護の発展を歴史の変遷から捉えることができる。母性看護の動向を母子保健統計から捉えることができる。 ・母性看護の起源 ・近代産科学の歴史と助産の発展 ・戦後の母子保健の基盤整備 ・母子保健統計
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
7	学習の主題	母子保健施策
	授業内容	母性看護に関する組織と法律について理解する。 ・母性看護に関するおもな法律 ・母子保健に関連する施策 ・母性看護の対象を取り巻く環境
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
8	学習の主題	ライフサイクルにおける女性の健康と看護①
	授業内容	思春期女性の身体的、心理・社会的特徴と課題を理解する。 ・思春期女性の身体的、心理・社会的特徴 ・思春期の健康問題と看護 ・性教育
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
9	学習の主題	ライフサイクルにおける女性の健康と看護②
	授業内容	成熟期女性の健康と課題を理解する ・妊娠、出産、分娩 ・家族計画
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
10	学習の主題	ライフサイクルにおける女性の健康と看護③
	授業内容	成熟期女性の健康と課題を理解する ・親になる過程 ・愛着と母子関係
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
11	学習の主題	ライフサイクルにおける女性の健康と看護④
	授業内容	成熟期女性の健康と課題を理解する ・女性特有疾患と看護 ・不妊症
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
12	学習の主題	ライフサイクルにおける女性の健康と看護⑤
	授業内容	更年期・老年期女性の健康と課題を理解する ・更年期・老年期女性の身体的、心理・社会的特徴 ・更年期障害と看護 ・尿失禁と看護
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
13	学習の主題	リプロダクティブヘルスケア①
	授業内容	性感染症とその予防について理解する ・性感染症 ・性感染症の予防
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
14	学習の主題	リプロダクティブヘルスケア②
	授業内容	周産期の死に対するケアを理解する
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
15	学習の主題	リプロダクティブヘルスケア③
	授業内容	DV 被害と被害を受けた女性に対する看護について理解する。 ・ドメスティックバイオレンス
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする

学習の主題・
授業内容

授業科目	母性看護活動論 I Maternal and Newborn Care Nursing I	担当教員	澤田 優美、齋藤 早香枝、野崎 由希子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の生理的変化と適応、および母親と家族の心理的変化について理解し、ヘルスアセスメントの視点およびそれらと関連づけた看護技術や母子の安全を確保するための具体的方法を学ぶ。また、健康管理のためのセルフケアへの看護を学ぶとともに、社会資源の活用方法についても学習する。妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期にある母子に看護実践を行うために必要とされる基本的知識および基本的看護技術を習得する。		
到達目標	1. 周産期の身体的、心理・社会的特性と看護について理解する。 2. 胎児・新生児の発育・発達特性と看護について理解する。 3. ヘルスアセスメントの視点およびそれらと関連づけた看護技術を実施できる。 4. 母子看護の安全性と倫理的視点について理解する。		
テキスト	森 恵美著者代表「系統看護学講座 母性看護学各論」(医学書院)		
参考書	1. 前原澄子編「看護観察のキーポイントシリーズ 母性I」(中央法規) 2. 新藤幸恵、和田サヨ子「母性の心理社会的側面と看護ケア」(医学書院)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	90%	目標への到達状況を試験、提出物により総合的に評価する。 ・試験：筆記試験(90点)：知識・技術の目標到達度を評価する。 ・提出物(10点)：ウェルネス看護過程の展開を行ない、必要に応じて指導の後再提出させる。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	10%	
その他			
履修上の留意事項	本科目の11回～15回は演習です。演習のオリエンテーションで、詳細を説明する予定です。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実際の看護場面の事例を講義に織り交ぜながら、理解しやすいように授業を行います		
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1 (澤田)	学習の主題	妊婦の身体的変化と看護
		授業内容	妊娠の成立と妊婦の生理的変化を理解する。 1. 妊娠成立の機序が説明できる。 2. 母体の生理的変化について説明できる。 ・生殖器における変化 ・妊娠による全身的变化
		事前・事後学習	事前にシラバスを読んでおくこと。
	2 (澤田)	学習の主題	妊婦の心理・社会的変化と看護、胎児の発育・成長と看護
		授業内容	妊娠期の心理・社会的変化について理解する。 1. 身体的・社会的変化にともなう心理を説明できる。 2. 妊娠経過にともなう不安や葛藤を説明できる。 3. 親になることへの準備とアセスメントを説明できる。胎児の発育とその生理について理解する。 1. 胎児の発育を説明できる。 2. 胎児の生理を説明できる。 3. 胎盤と羊水の生理を説明できる。 4. 胎児への薬物・放射線の影響を説明できる。
		事前・事後学習	事後学習：胎児の発育についてテキストによる復習
	3 (澤田)	学習の主題	妊婦の健康診査
		授業内容	妊娠の経過に応じた健康診査と日常生活の援助について理解する。 1. 妊婦の妊娠週数に応じた健康診査方法を説明できる。 2. 妊婦と胎児のアセスメントの視点を説明できる。 3. 妊婦の日常生活におけるセルフケア能力を高める援助の要点を説明できる。 4. 分娩準備に対する援助について説明できる。 5. ハイリスク妊娠とその看護について説明できる。
		事前・事後学習	事前学習：妊婦健康診査の項目とその目的をテキストから予習

回数 (担当)	項目	内容
4 (澤田)	学習の主題	正常分娩の看護
	授業内容	正常分娩の看護を理解する。 1. 分娩に関する用語の定義が説明できる。 2. 分娩のメカニズムと分娩の経過について説明できる。 3. 産痛のメカニズムと緩和方法について説明できる。 4. 産婦と胎児の健康状態のアセスメントについて説明できる。 5. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメントの視点を説明できる。
	事前・事後学習	事前学習：正常分娩の看護についてテキストから予習
5 (澤田)	学習の主題	分娩の異常と看護
	授業内容	分娩期の異常と看護について理解する。 1. 分娩期における正常からの逸脱の予測・逸脱徴候の早期発見とその対応を以下の点について説明できる。 ・分娩3要素の異常と看護 ・破水時の看護 ・異常出血の看護 ・帝王切開の看護
	事前・事後学習	事後学習：分娩期の異常と看護について復習
6 (斎藤)	学習の主題	産褥の観察とケアに必要な看護
	授業内容	産褥の退行性変化と進行性変化のメカニズムについて理解する。 1. 産褥期の退行性変化を説明できる。 2. 授乳期の進行性変化を説明できる。 産褥の産褥経過に応じた日常生活への援助を理解する。 1. 産褥の健康診査の必要性和診査内容を説明できる。 2. 産褥の日常生活援助の要点を説明できる。 3. 母乳栄養確立および育児技術取得への援助を説明できる。
	事前・事後学習	事前学習：産褥期の退行性変化と進行性変化についてテキストで予習
7 (斎藤)	学習の主題	産褥の心理・社会的変化と看護 育児支援と社会制度
	授業内容	産褥期の心理・社会的変化への看護について理解する。 1. 産褥の心理過程を説明できる。 2. 産褥とその家族の社会的変化について説明できる。 3. 産褥とその家族に応じたソーシャルサポートの活用について説明できる。育児支援と社会制度について理解する。 1. 退院に向けた援助の要点を説明できる。母子に適應される法的保護・諸制度・社会資源について説明できる。
	事前・事後学習	事前学習：産褥期の心理・社会的変化とその看護についてテキストで予習
8 (斎藤)	学習の主題	産褥期のハイリスクと看護
	授業内容	産褥期に発生しやすい異常とその看護について理解する。 1. 産褥期に起こりやすい異常と看護の要点を説明できる。 2. 腹式帝王切開術後の看護の要点を説明できる。 3. 母子分離や児を亡くした産褥に対する看護の要点を説明できる。
	事前・事後学習	事後学習：産褥期の異常と看護について復習
9 (野崎)	学習の主題	新生児の生理的变化と看護
	授業内容	新生児の生理的变化について理解する。 1. 新生児に関する用語の定義・分類について説明できる。 2. 新生児の出生直後の生理的变化の要点が説明できる。 3. 新生児の適應過程における生理的变化が説明できる
	事前・事後学習	事前学習：新生児に関する用語の定義についてテキストで予習
10 (野崎)	学習の主題	新生児の観察とケアに必要な看護
	授業内容	新生児の日常生活の援助を理解する。 1. 新生児の健康診査の要点が説明できる。 2. 新生児看護の原則を説明できる。 3. 新生児期の異常とその看護について説明できる。
	事前・事後学習	事後学習：新生児の看護について復習

学習の主題・
授業内容

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	11 (全担当教員)	学習の主題	ウェルネスの視点での看護過程
		授業内容	ウェルネスの視点で展開する看護過程の概要を理解する。 1. ウェルネスの視点で展開する看護過程の特徴を説明できる。 2. ウェルネスの視点で展開する看護過程とリスク型・実在型看護過程の違いを説明できる。
		事前・事後学習	事後学習：紙上事例の対象理解、看護過程展開
	12、13 (全担当教員)	学習の主題	看護過程
		授業内容	褥婦の看護過程の展開
		事前・事後学習	事前・事後学習：紙上事例の対象理解、看護過程展開
	14、15 (全担当教員)	学習の主題	妊婦・褥婦・新生児の健康診査
		授業内容	妊婦：尿検査・レオポルド触診法・胎児心音聴取など 褥婦：子宮復古観察・授乳法など 新生児：全身観察、バイタルサイン測定
		事前・事後学習	各看護技術について講義内容の復習

授業科目	家族看護論 Family Nursing	担当教員	針金 佳代子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	地域包括ケアシステムにおける患者（療養者）とその家族を一単位としてとらえ、家族が主体的に健康な生活を送ることを目指す家族看護の基本的な考え方と支援方法・技術を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステムにおける看護の対象としての家族について説明できる。 2. 地域で生活する家族の健康について説明できる。 3. 家族を理解するための諸理論について理解できる。 4. 家族のセルフケア機能の向上を目指す家族看護過程について理解する。 5. 家族が主体的に健康な生活を送るための看護職の役割や基本姿勢を理解できる。 		
テキスト	鈴木和子、渡辺裕子、佐藤律子「家族看護学 - 理論と実践 第5版」（日本看護協会出版会）		
参考書	山崎あけみ、原礼子編集「家族看護学改訂第2版」（南江堂） 「国民衛生の動向」（厚生労働統計協会）		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	<p>目標達成状況を下記の視点から評価し、60点以上を合格とする。</p> <p>① 課題レポート（20点）：講義中に学習する事例への看護過程に関する理解度を問う。</p> <p>② 定期試験（80点）：①のレポートで気づいたことや思考したことを踏まえて、家族の健康や家族看護に関する学習到達度を評価する。</p>
	レポート	20%	
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	日頃、家族について考える機会がありますか。自分の家族とその一員である自分について、改めてみつめてください。病院や地域で会うさまざまな家族に関心を持ち、専門書ばかりではなく、新聞や小説、絵本、漫画、映画、テレビなどの媒体を通して現代に生きる家族とその健康課題について理解を深めてください。授業内で事例の理解などを深めるために、バズセッションなどの方法を用いて展開します。		
実務経験を活かした教育内容	本科目は、保健所や市町村などで多様な家族への看護を行った教員が担当し、地域で暮らす家族とその家族看護について教材化した事例を活用する。分かりやすく理論を解説し、家族看護に活かせるように授業をする。		
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	地域包括ケアシステムにおける「家族」
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象としての「家族」の定義 2. わが国の家族の動向～これまで・現在・そしてこれから 3. 地域包括ケアシステムの中で生活する家族
		事前・事後学習	<p>事前学習：自分の家族について改めて見つめてみる。</p> <p>事後学習：自分の家族とその生活について、地域との関係から考える。</p>
	2	学習の主題	家族看護が目指す「健康な家族」とは
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な家族とは 2. 家族の健康の概念としてのセルフケア機能 3. 家族看護の目的そして目標
		事前・事後学習	<p>事前学習：自分の家族が、さまざまな課題をどのように乗り越えてきたかを振り返ってみる。</p> <p>事後学習：自分の家族のセルフケア機能について考える。</p>
	3	学習の主題	家族を理解するための諸理論（1）
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の役割、コミュニケーション、情緒、勢力、価値観（家族構造機能理論） 2. 家族のライフサイクルと発達課題（家族発達理論）
		事前・事後学習	<p>事前学習：自分の家族の中での役割や、家族の関係性について考える。</p> <p>事後学習：学習した理論を活用し、自分の家族の理解を深める。</p>
	4	学習の主題	家族を理解するための諸理論（2）
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. システムとしての家族（家族システム理論） 2. 家族がストレスを抱えた時の対応と適応（家族ストレス対処理論） 3. 家族が主体的に課題に向き合い解決していくプロセス（家族意思決定プロセス）
事前・事後学習		<p>事前学習：自分の周りにあるさまざまなシステムを探してみる。</p> <p>事後学習：学習した理論を活用し、自分の家族の理解を深める。</p>	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5	学習の主題	家族看護過程 (1)
		授業内容	1. 代表的な家族アセスメントモデル 2. 家族看護過程 3. 家族の全体像を捉えるための情報収集
		事前・事後学習	事前学習：看護過程について復習しておく。 事後学習：家族アセスメントモデルを活用し、「地域で生活する要介護高齢者のいる成熟期の家族」の情報収集の内容について復習する。
	6	学習の主題	家族看護過程 (2)
		授業内容	1. 家族のセルフケア機能のアセスメント 2. 家族がセルフケア機能の向上を目指すための家族看護計画
		事前・事後学習	事前学習：家族のセルフケア機能について復習しておく。 事後学習：家族アセスメントモデルを活用し、「地域で生活する要介護高齢者のいる成熟期の家族」のアセスメント、家族看護計画について復習する。
	7	学習の主題	家族看護過程 (3)
		授業内容	1. 家族がセルフケア機能の向上を目指すための家族看護の方法・技術 2. 家族がセルフケア機能の向上を目指すための家族看護の評価
		事前・事後学習	事前学習：家族のセルフケア機能を上げるためには、どのような看護が有効かを、自分の家族での経験を元に考えてみる。 事後学習：家族アセスメントモデルを活用し、「地域で生活する要介護高齢者のいる成熟期の家族」への家族看護の方法と技術を復習し、家族看護の評価をする。
	8	学習の主題	これからの時代に生きる家族への看護者の役割と基本姿勢
		授業内容	1. 家族が向き合うさまざまな健康課題 2. 家族とのパートナーシップの形成 3. パートナーシップを形成するための看護職の役割と基本姿勢 4. 家族とのパートナーシップを形成するための技術
		事前・事後学習	事前学習：基礎看護実習で出会った患者とその家族に対して、どのような家族看護ができたのかを、家族看護過程を踏まえて振り返る。 事後学習：今後、家族看護を実践していくために看護者としての自分の課題について考える。